

明石高校放送部回想(2024 年版 第3版)

* 毎年、12 月に改訂中…ガウディのサクラダファミリアではないですが、永遠に完結できず・・・

「“放送部”になって11年!・・・ここ数年を振り返る・・・まだまだ力不足は否めず・・・」
～2020以来、様々な制約、困難、…でもめげずに花を咲かそう!“夢”の実現へ～

2024年版(第3版)について…(巻頭言)

再任用になって以降、正直どこまでするべきなのか、どうするべきなのか、自問自答する日々を過ごしています。その中で次々と書き進めたため、どのような文章かあまり意識していませんでした。そのため、文章表現等でお手を煩わせ、時間をお取りいただくなど、お手間を取らせてしまった方々があります。申し訳ありません。目を通していただき感謝します。

もう限界…あと少し…もうムリ…気持ちが…悩みは続く…

2024 年は元日に能登半島を襲った地震(令和 6 年能登半島地震)があり、翌 2 日には羽田空港で日本航空機と海上保安庁機の衝突事故があり、3 日には北九州市で火災などスタートから災害に見舞われました。被災された皆さまの少しでも早い復興を祈念するのみです。個人的にも昨年来、薬の服用が 1 年以上(間もなく 2 年経過…)も続き、どこまで行けるか不安を抱えながらの毎日です。

ただ、とにかく、目の前には何とかやろうとする部員があり、学校外にも応援してくださる関係機関やOB達があります。年度をまたぐ業務も入ってきました。ということで、2024 年も“できる時”に“できること”に取り組むことになりました。部員たちと共に、放送部のあるべき姿、新しい形の放送部を模索しようと継続させていただけることになりました。ですが…

生徒にとって、(明石高校以外も含め)放送部活動にとってプラスになる事もあればそうでないこともありと様々な出来事があったと思う次第です。改めて、**間違っても、学校は教職員のためにあるのではなく、生徒が自らの可能性を伸ばすためにあるのではないのでしょうか?生徒がチャレンジする場ではないのでしょうか?**ということ自問自答する 1 年になりました。単に“広報”と割り切れれば、「あんなこともしました、こんなこともしました」「楽しいです」…で済むわけですが、実際に参加してくれた部員が「そんなはずではなかった」「言っていたことと違う」ということになれば生徒を裏切ることになりますし、また将来の顧問へ“知っておいて欲しい”

“(放送部のあるべき姿・活動を)考えてほしい”“(顧問も含め)学校も放送部も WINWIN になる部活動の運営を考えて欲しい”など多少ともこれまでの経験を伝えたいとの思いもあり、グダグダと書いています。申し訳ありません。

(放送部を活用すれば WINWIN の行事運営ができる!)

よくあるパターン(行事運営上の不安な要素)

- ①マイクを叩く… → マイクが壊れる(マイクは“話す”もので“叩く”ものではなく、壊れてあたり前)
- ②壊れた原因… → 「マイクの整備が悪い」となることが多数、代わり云々→個々に設定してあるので困難
- ③(わからないまま)あちこちスイッチやつまみを触る → 機材の設定を最初からやり直さないと復旧不可

*** どこをどのように触ったのかわからないと復旧には相当の時間が必要(半日以上を要する場合あり)!**

↓

放送部を活用すると…

- ①②マイクを叩くような放送部員はいない…

→ マイクは精密機器、“叩かれた”マイクは音が不安定になり大会では使用できない!

- ③普段から機材に触れており、わからないままあちこちを触る部員はいない…

*** たまたま担当になり、わからないまま機材を扱うことは相当な負担になります。それならば放送部を活用する方が効率的でもあり、生徒の活動できる場を提供することにもなり WINWIN ではないのでしょうか?**

で、万一手く行かなかったら…その時は顧問が頭を下げればいだけの話だと思います。生徒のチャレンジを支える場が学校ではないのでしょうか?

ただ、正直もう疲れしました…。疲れながらも、できる所までと思いつつ、何より“部員のパワー”に支えられつつ、カウントダウンの日々を過ごしています…。何とか、2024 年の除夜の鐘も聴けそうでありがたいです。そして、2025 年は気持ちよく納得できたと思える 1 年にと祈念するのみです。

以下の文章は、これまでの記録にその年の分を加筆する形にすぎませんが、今回も作成してみました。同じことをあちこちに書いているかもしれませんが、**ただ、生きていると様々なことがあります。良い事も良くないこともあります。この文章が、読んでいただけた方に少しでも何かのお役に立てる部分があればと願いつつ書いています。少しでも目を通していただけたなら幸いです。**これで終わりにするのか、後 1 回あるのか…。



(前書)最初に耳にした時、ビックリしたことなど…

縁あって、各校の放送部顧問の先生方と情報交換をさせていただいていた時、私が顧問をさせていただくずっと以前から放送部顧問をされている他校の先生から「昔の明石高校、知っているか？」と聞かれ、もちろん知りませんので「知らないです」とお答えしました。すると、全国の放送部顧問の間で有名な話として、「以前、明石高校が大会の会場になった時(平成の前半?)、当時の校長先生が高らかに**「明石高校はいかなる大会でも負けません！！なぜなら出場しないから。」**と宣言された。我々も驚いた。」と教えていただきました。まさにブラックジョーク？のような…。でも、それが実態だった時代があったということだと思います。教えていただいた頃には、明石高校放送部は各大会に参加を続けていましたので、それなりに認めていただけたからこそ教えていただいたのだと思います。ありがたいことです。

明石高校はよく“伝統校”と言われます。でも、これまでと同じならそれは“伝統”でなく単なる「前例踏襲」ではないでしょうか？“伝統”と言うなら、それぞれの時代の生徒のニーズに応え生徒に活動できる場を与えることができているのでしょうか？「前例踏襲」「自己満足」では生徒に力があっても力を発揮することができないと思います。全県放送部の顧問の先生方に高らかに宣言された先生、申し訳ありません。伝統=前例踏襲と考える方々申し訳ありません。**現在、放送部はこれらを多少とも克服する放送部でありたいと思います。多くの場で生徒の力を発揮できる放送部でありたいと思います。**

現在の明石高校放送部、正直まだまだ力不足です。でも、何かとチャレンジを続けようとしています。以前の校長先生が宣言されたことが伝統かもしれませんが、それを克服しようとしています。でもその結果、“明石高校はなかなか勝てません！なぜなら、各地の強豪と競っているから”というところです。

“全国への夢”、遠いです。そんな中、2017年、40年という時間はかかりましたが朗読部門で全国大会へ参加することができました。“全国大会への出場”なかなか続きません。でも、できるチャレンジを続けています。コロナ禍にめげず“できる時”に“できる事”に取り組んでいます。2021年には県総合文化祭でアナウンス部門決勝に出場し、朗読コンクールでは最優秀となりました。いずれも“明石高校初”です。そして、2022年にはアナウンス部門で全国大会へ参加することができました。アナウンス部門での全国大会は“明石高校初”です。さらに、高校野球兵庫県大会の閉会式、軟式全国大会の開始式・閉会式の司会進行にも関わらせていただきました。もちろん“明石高校初”です。続いて、全国豊かな海づくり大会にも関わらせていただきました。2023年には全国人権・同和教育研究大会に関わらせていただきました。どちらの大会も47年に1度、兵庫県で開催される大会です。生徒の力はすごい！2024年、県大会の決勝までは進出しましたが“全国への夢”は果たせませんでした。その代わりといえはおかしいかもしれませんが、明石文化国際創生財団、明石ケーブルテレビ、総合カルチャー誌THE TENPANSとのコラボで、明石市文芸祭市長賞受賞作品の朗読劇を制作させていただきました。朗読劇の様子は、明石ケーブルテレビで放映されました。これも、初めての試みです。

何が良いのか試行錯誤をしながらですが、部活動ですから、参加している部員にとって少しでもプラスになるような、ひとつでも上の大会(願わくば全国大会)へチャレンジできるような取り組みを続けねばと思います。

さて、年度ごとの覚書に入っていきます。毎年末に後ろに+αしています。

ただ、もし、これらの試みが、明石高校の“いかなる大会でも負けない”という伝統？を壊した、けしからんと言われるなら、慎んでお詫び申し上げます。近いうちに、“いかなる大会にも負けません。なぜなら出場しないから”という伝統？に回帰されてはいかがでしょうか。現在(2024年度現在)の顧問はそのような気持ちはありませんが…。

顧問の覚書(総論)？

縁あって明石高校に赴任させていただいたのが2006年、それ以前のことはいざ知らず、2014年頃まで、放送部なの？放送委員会なの？どっちなの？と言われつつ細々と活動していました。しかし、他校とも交流をすすめる中で「学校の役に立つ」「各大会の全部門に参加する」の二つを柱としつつ、放送部のあるべき姿を模索して活動することになりました。各大会の会場校としても、2010年6月、第57回NHK杯全国放送コンテスト兵庫県大会第3地区予選会場、2013年11月、第37回兵庫県高等学校総合文化祭予選会場、2015年からは夏のリーダー研修会会場、2016年からは放送フェスティバル会場も担当させていただいています。いずれも継続中です。2017年・2021年の11月には第41回・第45回兵庫県高等学校総合文化祭予選会場も担当させていただきました。

会場校をすることの大きなメリットは何といても生徒の成長です。まさに“部活動”のあるべき姿です。会場校になると生徒は、参加するだけではなく運営に関わることになります。多少とも先を見ながらの動きが必要になります。そうすることで、大きく成長する機会となります。2017年には第64回NHK杯全国放送コンテスト朗読部門で全国大会へと進出しました。まさに明石高校にとって40年ぶりの快挙でした。以後、なかなか継続できず全国への高い壁を感じつつ時間が過ぎます。

そして、2020年。新型コロナウイルス感染拡大によりNHK杯が中止となるなど部活動にも大きな試練となりました。何もできず大きく気持ちが挫折している中、KISS-FMから声がかかり、3年ぶりに“ハイスクールノオト”に参加させていただきました。ここで少しながら気持ちを持ち直し、県立こどもの館朗読コンクールにも応募しました。そして、生徒の頑張りで総合文化祭には全部門で参加することができました。その中で、朗読コンクールで本審査へ進むことができました。“明石高校初”です。ただ、新型コロナウイルス感染拡大は収まらず、部活動も大きく制約を受け、その都度、気持ちが挫折する中で2021年度を迎えました。

2021年度、いつどのようになるのか不安を抱えながらも、感染対策を講じながら、できるだけ通常に近い形で大会は開催されました。結果として、「あと少し」ということが多くありますが、一人一人が“できる事”に取り組んでいます。その中で、総合文化祭アナウンス部門で決勝に進むことができました。これは何と“明石高校初”の出来事です。朗読部門では時々、決勝に進んだことはありますがアナウンス部門では初めてです。また、県立こどもの館朗読コンクールでも2年連続(2020年度・2021年度)で本審査へ進むことができました。部員たちには是非“できる事”の取り組み少しでも成長して欲しいと願っています。もちろん、地区大会・県大会を勝ち抜いて全国大会へ進出できるようチャレンジしてほしいと思います。

2022年度、一つの“夢”を見ることができました。NHK杯アナウンス部門で全国大会出場です。もちろん“明高初”です。5年ぶりの全国大会です。そして、高校野球の式典(県大会閉会式、軟式全国大会開始式・閉会式)も担当させていただきました。これも“明高初”です。軟式全国大会は明石球場で開催されました。明石高校にとって近くて遠い球場でした。その球場に行くことができました。ありがたいことです。さらに、40年ぶりに兵庫県で開催された全国豊かな海づくり大会に出演させていただくこともできました。

2023年度、この年も47年に1回の行事に関わらせていただきました。明石市民会館で11月に開催された第74回全国人権・同和教育研究大会/第70回兵庫県人権教育研究大会中央大会の開会行事です。司会進行に放送部、裏方の業務に放送部とJRCで関わらせていただきました。当初は、主催者の皆さんは「高校生にできるのか」と不安だったようですが、しっかりと務めることができ「よくやってくれた」「細かなところまでやってくれてありがたかった」「すごい」とのお言葉をいただくことができました。放送部としまでも貴重な機会をいただきありがたかったです。

さて、たかが数年、されど数年。逆に、いつまでいるのかと思われているのかもしれませんが、顧問として、放送委員会(2015.4からは放送部)の生徒を見ていて感じることを、忘れないうちにまとめてみたいと思います。振り返るといろいろあったなあと改めて思います。同時に、次へ向けての課題も見えてくるなあと思います。ただ、見えては来ても克服には至らずで、いつまでたっても部活動としても発展途上です。でも、諦めずにポチポチとでも“できる事”に取り組んで進歩できればと思っています。

あとどれだけできるか…少しでも部員たちのプラスになれば…。将来の顧問の先生方にお役に立てれば…。

顧問の覚書(各論・年度ごとに…)?

2006年 明石高校に着任して、担当した部活動は放送委員会ではなく、男子ソフトボール部の2人目の顧問です。(以後、2013年まで男子ソフトボール部には関わらせていただき、生徒の頑張りで、全国選抜大会や近畿大会出場の経験もさせていただきました。また、他校の先生方にもお世話になりました。2013年の新チームからは、新たに顧問になられた新監督の方針もあり、男子ソフトボール部からは離れて放送委員会に関わっています。)放送に関しては、特に放送委員会に関わることも無く、個人的にも職場に慣れておらず部活動どころではない状

況にもあって、最初の1年は過ぎて行きました。正直、この1年は「身体が持つのかなあ」と思うほど訳のわからないまま過ぎて行きました。ちなみに、この年、「部活動の希望で“放送”」とお伝えすると「何を考えているのか！！楽しんでしているのか！！“部活”といえば運動部に決まっている！！」と返されたことが強く印象に残っています。

2007 年 放送委員会の3人目の顧問という形で関わることになりました。当時、担当していた3年生（60 回生）の部員はゼロでさらに3人目の顧問でしたので、何となく「フーン」という形で過ぎました。誰が部員なのかも良くわからず、放送委員会の動きも良くわからず時間が過ぎて行きました。ただ、よく気がついて動くことができる生徒はいるなと感じることはできました。

2008 年 2人目の顧問のような3人目の顧問のような形で関わった年です。まだまだ片手間のような形での関わりでした。そのため、部についても集団指導体制のような運営の放送委員会でした。ただ、当時の3年生は全員美術科の女子でなかなかのまとまりがあり、体育大会や明高祭では良く活躍していました。ただ、大会参加については、「以前からラジオ番組1本と決まっている」(部の方針??)らしく、「この程度なの?何か変だな?」と思いつつ時間が過ぎました。おまけに、放送部のご多分に漏れず、大会前日に深夜まで活動するという状況でした。当然、保護者の苦情も来ます。その時、良くわからず残っていたのは私です。そして、良くわからないまま苦情をお聞きするという状況でした。良くわからないままですから、何をおっしゃられてもお答えすることができません。そこで考えたことが「アンチテーゼとしての明石高校」です。要は、「放送部というものは、大会の前日には深夜まで、時には当日の朝まで作品制作に取り組むもの」だからこそ“全国大会へ出場できる”“結果を出せる”という常識(?)、いわゆるテーゼがあるようで、何とかそれを覆してみたい。下校時間を守った活動で全国へ出場したい。そうすることで、ごくわずかの先生方以外は放送部活動に関わるできない(関わろうとしない?)状況を改善できないものか。誰もが、多くの先生方が普通に放送部の顧問ができる、そういう状況にできないものかというものです。生徒についても、キッチリと家庭学習の時間を確保させることが出来ないものかと考えました。以後、明石高校では、下校時間を守りながらの活動をしています。とはいうものの、これまでの結果として、残念ながら、2014 年現在で、地区大会から県大会までは何とか進出しているのですが、それ以上は実現出来ていません。ですが、近い将来には、必ず“全国”と名の付く大会に出場したいと考えています。

また、学校の各行事への関わりについても、明高祭と体育大会以外は「放送委員会は関わらない(関わらせない?)」というのが基本のようでした。「なぜですか?」と尋ねると「上手く出来なかったら生徒がかわいそう」というもので、これにも、口では「そうですか」と言いつつも頭の中では「?????」でした。正直、この状況をいつか変えなければと思いました。

2009 年 第1顧問というか、主顧問というか、兼部でありながらも放送委員会を中心に関わることになりました。周りからは「本当にできるの?大丈夫なの?」という目で見られている中でのスタートでした。何かあると「前任者に聞けば・・・」と言われることもありましたが、「何か・・・、納得できない・・・」の複雑な心境でもありました。しかし、やはり、転機はあるものです。この年、教育実習に放送委員会OGの58 回生が来ました。この58 回生が良くやってくれました。在学中の思いもあったかに思いますが、使わない物は処分してスッキリしたいとの顧問の思いを受けて、使いやすい放送室にしてくれました。本当にありがたかったです。その他、放送室の放送卓も新しくなりました。おかげで、放送を流すための訳のわからない配線をする必要が無くなり、スッキリしました。また、ようやくパソコンが1台入ってきた年でもあります。以降、パソコンを始め、放送委員会の活動に必要な物をそろえるため、部費を使うだけでなく、教育振興会からも補助をいただきながら購入して行きます(ちなみに2013 年現在の形になるまでに5年かかりました)。当時、部員は3年生3人、2年生4人、1年生4人という、放送部としてはマアマアの人数でした。ただ、各行事の運営について、放送委員会が関わるの

だと指示すると、当時の3年生から返って来た答えが「なんでやらなあかんのですか？」というものでした。これには驚きました。以後、「放送委員会であるならば、各行事に関わるべきものなのだ」ということを言い続ける日々でした。そのうち、多分シブシブだったのかもしれませんが、徐々に関わるできるようになってきました。ただ、まだまだ周りの目は厳しく、ウロウロすると邪魔だ、目ざわり云々というものがほとんどでした。ホトホト、これまで何をしてきたの??と感じる日々でした。そう感じながらも、各行事への関わりを増やしていきました。

大会についても、「参加できる部門には参加する」ということで、従来のラジオ番組だけではなく個人部門にも参加を始めました。同時に、翌年のNHK杯予選会場に決まりました。聞くとところによると、明石高校は平成の初め頃までは放送委員会が良く頑張っていて、“地域の拠点校”になっていたようです。実際に、平成7年にはNHK杯の地区大会予選会場校として使用されています。たまたま、この時のパンフレットが残っていました。ただ、その時期以降は、「負担になる」「他の部が反対する」等などで会場校になることもなく過ぎていたようです。講堂もあり、交通も便利な立地にあるので放送文化部からも「会場校として使わせてほしい」との要望はずっとあったようです。しかし、会場校になることなく時間が過ぎて行きました。放送委員会の活動の記録もこの時期の分は途切れています（29回生から47回生は“卒業記念色紙”が残されています。61回生以降は放送室に“卒業記念写真”があります。48回生から60回生までが???の状況です）。こういう状況の中での会場校、15年ぶりの会場校です。顧問としては、「何とかなる」と思っていました。当然、不安もありました。ともあれ、会場校に決まったことは、放送委員会にとっても大きな転機となりました。自己満足だけではなく、少しずつながら、外へも目が向くようになってきたと思います。

ついでながら、放送委員会の役割として、この年から下校放送もスタートさせました。

2010年 NHK杯全国放送コンテスト兵庫県大会第3地区予選会場校です。会場校になったからではありませんが、この春、待望の講堂放送室が設置されました。それまで講堂には放送設備はありましたが放送室はなく、卒業式や入学式の時にはミキサーやデッキを持ち込み、ややこしい配線、そして操作をする状況でした。おまけに、式の時には、設備の周辺にも立つ人が多く、式の進行がまったく見えず、どこで曲を流したものやら全く分からない状況でした。よくこれで式典の運営ができたものだと思う状況でした。そのため、放送委員会に関わって以降、ずっと「設置して欲しい」「何とかしてほしい」と言い続けました。しかし、言い続けても放送委員会の存在がほとんどない状況では、思いが通じるはずもなく、当然、予算も厳しい状況でなかなか実現しませんでした。それが、2010年の春にようやく実現しました。ただ、完成はしたものの放送室の窓の位置と放送卓の高さが合わない、放送室の天井が無い、放送室の鍵が無いという状況でした。さらに、もう予算はないという状況です。それで、どうしたか。仕方が無いので、64回生の生徒と放送卓の高さを高くするため、廃材を見つけてきて台を作りました。寒風の中での作業で、強く思い出に残っています。さらに、天井用の板を購入して、脚立に登って天井をつくりました。現在でも、自作の台、天井とも現役です。そして、何とか無理を聞いていただき、ちょうど良い高さに窓を調整していただきました。鍵についても、ゴールデンウィーク明けに何とか付けていただきました。ようやく完成です。実際、64回生はこの後、講堂放送室には強い思い入れをもって活動してくれました。ある意味、“放送委員会中興の祖”とも言えると思います。

さて、大会です。大会へは、会場校として、できるだけ多くの部門へ参加しました。運営については、当時、2年生の64回生が主力となり、3年生の63回生も1年生の65回生も、それに刺激されてよく動いてくれたと思います。顧問から聞くのではなく、実際に参加各校の放送部の動きを見ることで、「このままではいけない」と、少し目が覚めたように思います。この経験の中で、放送委員会の基本として「**学校の役に立つ**」「**各大会全部門に参加する**」という二本柱が確立しました。ようやく放送部らしくなってきました。各行事への放送委員会への関わりについてもこれまでの「邪魔になる」から「良くやってくれる」へと徐々に変わってきました。

学校行事についても、2年生を主力として、各行事ごと分担を決めてやらせていきました。当初は「??」と

ということもありましたが、回数を重ねるにつれて恰好が付いてきました。「お昼の放送」についても生徒自身がアイデアを出しながらできるようになってきました。

2011年 「学校の役に立つ」という点については、板についてきたと感じます。それぞれの行事で、それなりに考えて動くことができました。同時に、周りの目も「任せておけば大丈夫」というように変わってきたように感じました。「大会に参加する」という点についても意識できるようになってきました。さらには、日本赤十字兵庫支部より有功章等贈呈式司会進行の役割もいただくことが出来ました。部員も増えつつあります。ある意味、順調に見えます。ただ、ここでも課題が出てきました。各自、一人ひとりが良く頑張って大会に臨むのですが、それで力尽きてしまうという状況です。さらに、学習面に不安を抱える部員も出てきました。高校の部活動は、あくまで高校生としての学習が出来た上でのものです。学習面が不安なままでは部活動どころではありません。部活動がんばりましたから欠点でも進級させてくださいということにはなりませんし、何より本人のためになりません。また、保護者の皆さまに対しても申し訳が立ちません。まず、学習にしっかりと取り組んでもらわねばなりません。そこで、**“万一、欠点を取ってしまったなら欠点がなくなるまで部活動禁止(放送室出入禁止)”**という高校の部活動としての原則を徹底することになりました。該当者については、当然、大会にも参加することはできません。

2012年 NHK杯で、ここ数年で“初めて”個人部門で地区予選から県大会準決勝へ進出することができました。これまでは地区予選で「佳作」が精一杯でしたが、ようやく「入選」1名を出すことができました。残念ながら、県大会では大きな壁に跳ね返されましたが、放送委員会にとっても“大きな一歩”となりました。研修にも出かけるようになりました。この年は、FMげんきのパーソナリティから指導を受けることができ、何となく「“全国”へ行きたいな」「トップに追い付きたいな」という空気が始まったように思います。日本赤十字兵庫支部の有功章等贈呈式司会進行の役割についても、昨年に続き、やらせていただきました。

2013年 明石高校創立90周年の年です。放送委員会もこの式典の司会進行をさせていただくことが出来ました。3年生2名が式典、2年生2名が記念講演会の司会進行を努めました。生徒にとっては緊張したことと思いますが、明石高校卒業生3万名を越えるなかでも90周年式典の司会進行に関われたのはわずか4名です。誇りに思ってもらってもいいと思います。顧問としては、多少とも放送委員会の活動を認めていただいたことになりますので、ありがたいことだと思っています。NHK杯についても地区大会個人部門で「入選」3名を出すことができました。いずれも県大会準決勝で大きな壁に跳ね返され、あと一歩で決勝進出とはなりませんでした。昨年に比べ“少し進歩”することができました。ただ、明高祭(文化祭)翌日の大会ということで、「力尽きた(?)」ということがあるのかもしれませんが。何とか、“もう一歩”進んでほしいと思います。夏の研修にも出かけました。研修では、ラジオ関西現役アナウンサーの指導を受けることが出来ました。さらに、学校説明会の司会進行・運営です。秋になると、県総合文化祭会場校です。この大会には県下105校から1,000名を越える参加がありました。生徒も、参加するだけでなく、運営にも関わることが求められます。前日準備では、模試の後にも関わらず、会場設営に清掃にと良く動いてくれました。設営については、こちらが思っていた以上にやってくれて大助かりです。当日についても、受付から後片付けまでよく動いてくれ、他校の先生方からも「よく動いてくれて助かった」との言葉をいただきました。大会も順調に実施することができました。日本赤十字兵庫支部有功章等贈呈式司会進行の役割も3年連続でやらせていただきました。

ついでに、年末には10年以上設置されたままのディスプレイを復活させることができました。以後、“今日の予定”を知らせる役割を担っています。

まさに、いろいろと経験することで生徒は成長することができる、少しの工夫でできることが増えるということが実感できた年になりました。

2014 年 大会としては、2 月の放送フェスティバルからスタートです。今回は、第 3 地区だけではなく、第 1 地区へも参加しました。いずれもアナウンス部門での参加です。第 1 地区で“入選”、第 3 地区で“佳作”をいただくことができました。新学期になり、7 名の新入部員が入ってきてくれました。例年のことながら、1 学期は文化祭(明高祭)と NHK 杯と大忙しで取組みました。さらに、今年は兵庫県高等学校総合体育大会開会式の司会進行も担当させていただきました。当然、“明石高校初”の出来事です。同時並行であれもこれもという状況になりますが、様々な機会をいただけることはありがたいことだと思っています。NHK 杯地区予選においても「入選」はなりませんでしたが過去最高数の「佳作」を得ることができました。そして夏、学期末の講演会では、朗読をさせていただく場面がありました。夏季休業期間に入ると、美術科夏季見学会、理数探究類型体験説明会、そして学校説明会へと多くの行事に関わることができました。いずれの行事も、放送委員会どころか学校の名前を背負っています。その中で、一人ひとりがしっかりと役割を果たしてくれました。また、今年 4 年目となる明高夏休み小学生教室で今回初めて「アナウンス体験」を実施しました。放送委員会として、これまで小学生教室の取材にはでかけましたが、実施することは初めてです。小学 1 年生から 6 年生まで 40 名の参加です。この行事も、部長・副部長が中心となり運営していきましました。きっと小学生には“夏の良い思い出の一ページ”になってくれたのではと思います。いずれの行事も顧問は後ろで見ていてだけで動けるようになっていきます。部としても年々成長してくれているのがありがたく感じています。願わくば、もう一歩、「佳作」ではなく「入選」を、「地区大会」「県大会」ではなく「全国大会」へとコマを進めて行きたいと思っています。

さて、11 月。まずオープンハイスクールが今年も実施されました。第 1 日目は 1 年生、第 2 日目は 2 年生が担当しました。参加された方からは「放送部の声が良く聞こえて分かりやすかった」などの声をいただきました。励みになります。続いて、第 38 回県総合文化祭です。“もう一歩”の思いが多少とも実ったのか、この大会では“明石高校初”を達成することができました。①全部門にフルエントリー、“明石高校初”です。②朗読部門参加者をオーディションで決める、“明石高校初”です。③朗読部門で「入選 1」「佳作 1」、総合文化祭で賞を得たこと、“明石高校初”です。④総合文化祭個人部門で決勝進出、もちろん“明石高校初”です。でも、課題も残ります。決勝では、“あと少し”ということで「賞」を逃しています。来年の NHK 杯での“リベンジ”を果たして欲しいと願います。

2015 年 4 月、“放送委員会”は“放送部”へと進化しました！！

2015 年 この年、明石市の人権推進課と共同で“戦後 70 周年平和祈念”ということで作成された“まんが『七夕の願い』”を実写化する取り組みをさせていただきました。作成された DVD は明石市内全ての学校、公民館などに配布され活用されることになっています。もちろん“明石高校初”の取り組みです。この関連で、明石ケーブルテレビやサンテレビなどにも出演しました。また、第 3 地区夏季リーダー研修会会場して、研修会を実施しました。明石高校が研修会の会場となるのは初めてのことです。研修には、ラジオ関西やサンテレビなどで活躍されている浅井千華子さんを講師に招いてご指導いただきました。さらには、秋田朝日放送の永井華子アナにもお越しいたご指導いただきました。

各大会の結果は、NHK 杯地区大会では個人部門で佳作を 3 名がいただきましたが、県大会には届きませんでした。ラジオドラマ部門では、記録を見る限り 17 年ぶりに入選となり、県大会準決勝に進出しましたが、兵庫県のレベルの高さという厚い壁に阻まれてしまいました。県総合文化祭では、全部部門へ参加しましたが、地区大会での佳作にとどまりました。あと少し、あと少し……。

2016 年 今回から 2 月の放送フェスティバル会場となりました。大会の様子は明石ケーブルテレビで放映されました。GW には、Kiss FM 神戸よりパーソナリティの永田早紀さんにお越しいたご、校内で共に『ハイスクールノオト』の取材に取り組みました。この取材を元に、Kiss FM へ行かせていただき、番組収録に取り組みま

した。収録した番組は、Kiss FMで放送されました。明石高校の作成した番組が公共の電波で流れる……。もちろん“明石高校初”の出来事です。そして、NHK杯。朗読部門で地区大会を突破し、準決勝を突破し、決勝に進出することができました。“明石高校初”の快挙です。また、県総合文化祭でも決勝に進むことができました。その結果、2年ぶりに冬季宿泊研修(個人部門)に参加させていただくことができました。

夏季研修会では、昨年に続き会場校として、BANBANラジオパーソナリティの藤田貴子さんにお越しいたき、参加各校が番組を創って発表していききました。

その他、県総合体育大会開会式の司会進行(3年連続)、日本赤十字兵庫支部有功章等贈呈式司会進行(2年ぶり5回目)、明高夏休み小学生教室“アナウンス体験”(3年連続)などに取り組んでいます。さらには、“明石高校初”の出来事として、バスケットボールのウィンターカップ場内アナウンス、ラグビーの大会での場内アナウンスなど様々なことに取り組ませていただきました。

あと少し、あと少し……。一步、一步……。 “全国への夢”を実現できるように取り組んでゆきたいと思います。それにしても道は長い……。

2017年 2月、第12回放送フェスティバル会場として大会を運営しました。今回、北部の大雪にも関わらず、東は川西、西は龍野、北は北条、南は徳島から28校が参加です。また、初めて本校生徒がベスト10入りをすることができましたし、進行も進路が決まった3年生が務めてくれました。当然、“明石高校初”の出来事です。午後の研修には、Kiss FM神戸よりパーソナリティの永田早紀さんにお越しいただきました。そして、新年度、72回生6名が新たに参加です。4月のGW、県立東播磨高校で開催された合同練習へ参加しました。1年生も参加です。東播磨高校、市立西宮東高校、加古川南高校と全国大会へ参加する力のある学校との合同練習です。受けた刺激も大きく次へとつながったと思います。また、GW最終日には、大阪芸術大学伊丹学舎で実施されたハイスクールノオトレッスンに参加しました。

そして、いよいよNHK杯です。地区大会では、朗読部門で入選2・佳作1、ラジオドラマ部門で佳作2という結果となり、朗読部門で2名が県大会準決勝に進出しました。さて、準決勝……。今年は前日まで明高祭(文化祭)ということで、まさに休みなしで大会です。その結果、朗読部門で1名が決勝に進出しました。また、テレビドキュメント部門で奨励賞1を得ました。ついに決勝……。朗読部門で2年連続出場です。OGも応援にきてくれました。結果、全体の8位で優秀賞となり、全国大会へコマを進めました。放送部の全国大会出場は、40年前にあったようですが、記録がなくはっきりとしたことは分かりません。実質、“明高初”の快挙です。よく頑張ってくれました。よりよく調べると、昭和52年に開催された第24回大会にウエハラさんが朗読部門に出場され、4位になられたようです。

みんなの思いとともに全国大会参加です。**明石高校が40年ぶりに全国の舞台に帰ることができました**。大会では“チーム兵庫”の一員として取り組みました。NHKホールに立つことはできませんでしたが大きな経験となりました。やはり、全国大会はすごい！！

秋には、県総合文化祭開会行事の司会進行、そして県総合文化祭放送文化部門予選会場校として大会の運営にも取り組みました。結果として、朗読部門で佳作1でしたが、次への目標もできました。決勝大会では、テレビ番組部門で奨励賞を獲得しました。さらに、年末には、兵庫県教育委員会主催の“読書推進フォーラム”の司会進行、ラグビーの全国高専大会・全国ジュニア大会の場内アナウンスもさせていただきました。ラグビーの大会では、何と、決勝も含む試合の場内アナウンスです。参加生徒も試合を重ねるにつれ上達してきました。ありがたいことです。ラグビートップリーグの試合の場内アナウンスに取り組んでいる放送部OGもいます。2019年にはラグビーのワールドカップが開催されます。もしかすると、“全国”どころか“世界”への一步となるかもしれません。

2017年、40年ぶりにNHK杯全国高校放送コンテストに参加しました。

2018 年 今年も 2 月に、2 地区の放送フェスティバル(松蔭高校)に参加すると共に、第 13 回放送フェスティバルの第 3 地区大会の会場校として大会を運営しました。これで 3 年連続です。毎年、参加者も増え参加校も 38 校となりました。そのため、今回初めてアナウンス部門と朗読部門を分けて 2 会場で運営しました。午後は、番組制作に関する研修に取り組みました。また、今回も地元の明石ケーブルテレビが取材に来てくれました。結果として、佳作 1 でしたが、良い経験を重ねることができました。

そして新年度、今年も新たに 6 名が参加してくれました。GW には昨年につき、東播磨高校での合同練習会に参加させていただきました。全国大会常連の東播磨、西宮東をはじめ、加古川南、播磨南、白陵、明石の参加で刺激しあいながら力量を高めていくべく取り組みました。そして、NHK 杯です。地区大会ではアナウンス部門で佳作：3、朗読部門で佳作：3、となり、残念ながら個人部門での県大会進出はなりません。県大会では、研究発表部門で奨励賞を得ることができました。とにかく、できることをやり続けることの大切さを実感する NHK 杯でした。また、県大会の前日には、明高祭で、3 年生を中心に朗読劇「四谷怪談」を実演しました。翌日の県大会では、研究発表部門で奨励賞をいただきました。とにかく番組作成を続ける大切さを感じました。

ようやく夏休み、各地区の研修会への参加、東播磨高校での合同練習会(東播磨、加古川西、明石北、明石)などで刺激を受けながら次の大会への準備をすすめました。神戸野田高校での研修会における“番組の制作について”、明石高校での研修で藤田先生より教えていただいた“音の高さと幅について”、東播磨高校での DJ 番組についてなど大いに勉強になるものばかりです。同時並行で、学校説明会への取り組み、体育大会への準備などを進めてきました。

2 学期、県総合文化祭や体育大会、オープンハイスクールの運営などの学校行事とともに、地域イベントやラグビー関係の業務にも取り組みました。

総合文化祭では、朗読部門で佳作：1、テレビドキュメント部門で奨励賞：1 を得ました。時間に追われる事も多くなりますが、とにかくやり続ける大切さを感じます。地域イベントでは、ステージの司会進行(台本無し、その時々に出演者に取材)や運営(音響など)を経験しました。ラグビー関係では、年末の全国ジュニア大会の会場アナウンスの業務に取り組ませていただきました。

2019 年 今年、明石市制施行 100 周年、明石城築城 400 年、ラグビーワールドカップと様々なイベントがあります。年度当初からバタバタしてしまい、他地区の放送フェスティバルへは参加しませんでした。第 14 回第 3 地区放送フェスティバルの会場校として大会運営にあたりました。しかも、今年、明石市より許可をいただき、「明石市制 100 周年記念事業」の一環としての開催です。シンボルマークもプログラムに入れさせていただきました。参加者も過去最高を記録しました。地区大会とはいえ、県下各地区、さらには徳島県からの参加もあり、中学生の参加もありと県大会レベルの大会となりました。明石ケーブルテレビの取材もありました。明石高校のみならず、明石地区の学校で上位に入ったのは明石北高校からの 1 名という結果でした。例年、この第 3 地区放送フェスティバルで結果を出した生徒は、NHK 杯でも全国上位になっています。

新年度、3 名の新生が入ってきてくれました。早速、GW に、東播磨高校での合同練習会に参加し、その後、肉フェス、B-1 プレイメントの運営など大活躍でした。NHK 杯地区大会では、朗読部門で入選 1、佳作 3、ラジオドキュメント部門で佳作 1 となりました。その結果、2 年ぶりに個人部門で県大会準決勝に進出しました。文化祭 2 日間で疲れもピークの状況での準決勝、参加者にとってはあまりの状況です。残念ながら、決勝に進出することができず、“夢”は持ち越しです。その他、研究発表部門で奨励賞を受けました。

夏、特に 8 月前半、各地区研修会への参加、小学生教室など行事が一杯で慌しく時間が過ぎて行きました。その中で、明石高校でも 3 地区夏季リーダー研修を実施しました。プロ講師として、藤野孝教氏(昭和プロ 浜村淳氏、キダタロー氏と同じ事務所)をお招きし、「声の作り方」「声のコントロール」などについて教えていただきました。また、参加者の交流を深めるため、同じ学校の生徒が入らない形で班を作り、班の対抗でミニコンテストを実施しました。原稿作成には野球部も協力してくれました。非常に猛暑の中での研修会でしたが、参加生徒か

らは「面白かった」「普段の練習に取り入れたい」との声も聞かれました。さらには、2年ぶりにラジオ関西特別講習会にも参加させていただきました。個人部門では現役アナウンサーから直接指導を受けることができ、製作部門でも現役ディレクターから指導を受けられるとともに、実際に番組収録まで体験できる機会です。参加者も「今までで一番勉強になった」という感想を持つほどの内容でした。そして、ようやく盆休み……。8月後半、合同練習会(東播磨・播磨南・明石北・明石)からのスタートです。

2学期、当初から多くのことが同時並行で進む状況で、なかなか落ち着いて部活動に取り組むことができずに時間が過ぎて行きます。中でも、時にはOBの力を借りつつ体育大会に取り組み、総合文化祭にもオープンハイスクールにも取り組みました。さらには、兵庫県赤十字有功章等贈呈式の司会進行もやらせていただきました。総合文化祭予選では朗読部門：佳作1に留まりましたが、多くの学校が時間オーバーや読み違い、改変などで失格や減点になる中、何の問題もなく参加できたことは一つの誇りです。決勝へはテレビドラマ部門でと取り組みましたが、残念ながら力尽きてしまいました。でも、明石市制施行100周年記念行事のラストを飾るB-1グランプリ全国大会へボランティアとして参加することができました。これには、OBも参加してくれ、共に2日間で31万4千人の来場された方々をおもてなしすることができました。

まだまだ課題が残りますが、2020年へ向けて少しでも改善できるように取り組めればと思います。

2020年 今年も2月に第3地区第15回高校放送フェスティバル会場校としての運営からはじまりました。結果として、朗読部門で佳作2となり、まあまあのスタートです。(最初にも記していますが)ここからが“ありえないこと”の連続でした。2月27日に安部首相の「休校要請」があり、卒業式も在校生の出席なし、音楽部無しで簡素化して実施することになりました。このような状況でしたが、放送部は、「卒業生に寂しい思いをさせたくない」という思いで運営に携わりました。式後はすぐに下校する必要がある、例年放送室で実施している歓送会ができず、生徒は残念な思いでした。以後、休校が続く、部活動もできない状況が続きました。4/8の入学式も不可となり、代わりに新入生説明会となりました。ここでも、放送部は、「新入生に入学した気持ちになってほしい」という思いで運営に携わりました。ただ、説明会終了後はすぐに下校する必要があります。そして、5/6までの休校となりました。さらに、4月28日には5月31日までの休校期間の延長が決定されました。この間、新入生と接触することもできず、大会はどうなるか、部活動は存続できるのか、不安の中での新年度スタートです。まさに絶滅危惧種からのスタートです。

NHK杯については、通常とは異なる形であっても何とか開催できないか模索を続けましたが、新型コロナウイルス感染拡大の状況の中、苦渋の決断で中止となりました。最初で最後のNHK杯全国高校放送コンテスト兵庫大会もなくなりました。ただ、3年生の最後の機会を設けることができないかと試行錯誤を続け、NHK杯の代替として“2020兵庫大会記念 放送コンテスト”が非公開審査で実施されました。とにかく74校が参加です。もちろん、明石高校も2・3年生全員で個人部門に参加しました。番組部門については、様々な制約もあり見送りました。ただ、3年生全員が参加できたことは良かったと思います。ただ、明石市内の高校から参加したのは明石高校だけでした。決勝大会に進むことはできませんでしたが、よくがんばってくれたと思います。また、学校紹介動画のアフレコにも取り組みました。ユーチューブでの公開となり、放送部としての足跡を残すことができました。新入部員については、6月も中旬になり、ようやく1年生の部活動見学も始まり、数名が放送室を覗いてくれました。結果、7名が参加してくれました。“夢”はつながりました。その後、新入部員は12名にまできました。ありがたいことです。

早速、以前から声を掛けていただいたKISS FMの“ハイスクールノオト”に参加しました。学校を取材し、KISS FMへ行き番組を作成するというものです。全員1年生という布陣で取り組みました。1年生にとっては、訳の分からないうちに「行く」ということになりましたが貴重な経験ができたと思います。もちろん、番組は全県対象に放送されました。非常にありがたかったです。さらに、代替大会の一つとして、ラジオ関西さん開催の“#放送部の夏 高校アナウンスフェア”に全員で参加しました。ラジオ関西さんで選考のうえ、オンエアされること

になります。また、県立こどもの館主催の朗読コンクールに全員が“動画”で参加しました。その結果、1名が第一次審査を通過することができました。ただ、それ以外は全て中止の夏になりました。

感染拡大も何とか落ち着きつつある中で秋になりました。11月3日の総合文化祭予選については、人数制限をするなどできるだけの対策の中で実施され、本校からはアナウンス部門：佳作1、ラジオドキュメント部門：佳作1となりました。“あと少し”という部分もありますが、とにかくできることはやってくれたと感じます。明高祭代替の文化発表会、オープンハイスクールもこの時期に開催されました。さあこれからと思った11月中旬以降、新型コロナウイルス感染が大きく拡大し、連日100名を超える状況となりました。この影響で、11月20日には11月30日に予定されていたJRCの130周年記念大会が中止となりました。非常に残念です。総合文化祭決勝については、11月22日に姫路市市民会館で“できるだけ感染対策”をとりながら開催されました。本校はテレビドキュメント部門で奨励賞をいただきました。とにかく開催することができやれやれです。また、11月29日の県立こどもの館主催の朗読コンクールでは審査委員特別賞をいただくことができました。さらに、12月にはラジオ関西主催の「高校生明るい“防災”CMコンテスト」に応募しました。年末にかけても感染拡大は続いています。年明けの放送フェスティバルについては「各地区内のみ、中学校の参加なし」とすることが決まりました。毎回の大会が「これで最後になるかも」という気持ちの連続です。まさに精神戦が続きます…

2021年 新型コロナウイルス感染拡大による緊急事態宣言からのスタートです。放送フェスティバルも2月には開催できず、3月に何とか開催できました。ただ、それ以降が大変でした。4月5日からは“まん延防止等重点措置”が発出され、4月25日からは緊急事態宣言が発出され、部活動原則禁止となりました。特に、東播磨高校での合同練習会を予定していたのですが、前日に「明日から不可」とのことになりました。気持ちも挫けます。部活動も原則禁止です。そして、緊急事態宣言の中、NHK杯の時期を迎えます。個人部門では佳作までは行くものの“県への壁”を破ることはできず、番組部門で県大会へ参加しました。6月21日からはまん延防止等重点措置となり、ようやく夏と思うと今度は警報が何度もあり、合同練習会も中止となりました。気持ちが挫けます。さらに8月20日からはまた緊急事態宣言の発出です。部活動も原則禁止です。お昼の放送も中止です。そのような中、新型コロナウイルス感染拡大を防止するための呼びかけはしてほしいとの声を受け、お昼の放送の時間を利用して呼びかける活動を開始しました。あくまで部活動ではなく、呼びかけをしているだけです。1回あたり2名での対応をしていきました。“呼びかけ”＋“元気の出る曲1曲”のほんの10分程度の放送です。その他、9月は体育大会の司会進行程度で過ぎていきました。そしてようやく9月30日で緊急事態宣言が解除され、徐々に通常に近い活動に取り組めるようになってきました。総合文化祭への準備が中心です。特に今年は4年ぶりに総合文化祭予選の会場校となりました。11月2日の前日準備から3日当日の運営・片付けと部員も状況をみながらよく動いてくれました。天気にも恵まれ、参加者一人一人が“晩秋の充実した時間”を過ごすことが出来ました。明石高校もアナウンス部門で決勝に進むことが出来ました。“明石高校初”の出来事です。23日の決勝においても35人中14位で奨励賞と健闘しました。そして、テレビ部門でも決勝に参加し奨励賞となりました。県総合文化祭に続いて、28日には県立こどもの館朗読コンクール(本審査)にも参加しました。動画による一次審査を通過した6名しか参加できません。昨年に続き2年連続です。これだけでも“明石高校初”です。さらに審査の結果、“こどもの館賞”を獲得することができました。この賞はこのコンクールでの最優秀賞となります。もちろん“明石高校初”です。12月現在、感染者は大きく減少していますが、新たな変異株(オミクロン株)が見つかった、ワクチンも効かないかもしれないなどと言われています。徐々に日常は戻りつつあるように見えますが、いつ、どのようになるのかわかりません。まだまだ精神戦が続きます。“できる時”に“できる事”に取り組み少しでも部員の可能性を広げることができればと願う今日この頃です。

参考までに、

緊急事態措置実施期間 令和2年4月7日～令和2年5月21日

令和3年1月14日～令和3年2月28日

まん延防止等重点措置実施期間 令和3年4月5日～令和3年4月24日

緊急事態措置実施期間	令和3年4月25日～令和3年6月20日
まん延防止等重点措置実施期間	令和3年6月21日～令和3年7月11日
まん延防止等重点措置実施期間	令和3年8月2日～令和3年8月19日
緊急事態措置実施期間	令和3年8月20日～令和3年9月30日

この先は当たり前の日常が続くことを願うのみ…。

12月になり感染者数は減少しましたが世界的にオミクロン株が拡大するなど以後も不透明な状況が続いています。そのため、今回も年明けの放送フェスティバルについては「各地区内のみ、中学校の参加なし」とすることが決まりました。いつどのようになるかもわからない、毎回の大会が「これで最後になるかも」という気持ちの連続です。まだまだ精神戦が続きます…

2022年 年末・年始は落ち着いていた、新型コロナウイルス・オミクロン株感染拡大が1月中旬から急増し、兵庫県にも期間を1月27日から2月20日までとする4回目となるまん延防止等重点措置が適用されました。これにより、2月11日に予定していました第17回放送フェスティバルも3月19日に延期されました。今年もまた混乱からの始まりです。まん延防止等重点措置については、3月6日まで、3月21日までと延長を重ねました。放送フェスティバルもまん延防止等重点措置適用下での開催になり、発表時もマスクを着用するなど通常以上の感染対策を行ったうえでの開催となりました。

そして新年度、なんとなく感染状況も落ち着きつつあるような感じで推移しNHK杯の時期を迎えました。6月5日の地区予選の結果、今年は個人部門で入選3(アナウンス:2、朗読:1)となり個人部門でも県大会に進出することができました。さらに、ラジオドキュメント部門でも入選となり、この部門は準決勝がないので決勝進出です。“明高初”の出来事です。まさに生徒の力です。県大会へは個人部門の他、テレビドキュメント部門、研究発表部門、ラジオドキュメント部門での参加です。6月18日・19日の県大会の結果、アナウンス部門で“優秀賞”を獲得し全国大会準々決勝への進出を決めてくれました。5年ぶりの全国大会です。アナウンス部門は“明高初”の快挙です。その他、朗読部門・テレビドキュメント部門・ラジオドキュメント部門・研究発表部門で“奨励賞”を獲得しました。特に、最後まで取り組んだ3年生にとっては「やれることはやった」と思える大会となりました。顧問としても5年前の東京で、兵庫県の先生方との打ち合わせ会で「明石高校は全国大会に戻ってくるまで40年かかりました。次回も40年後なら命がありません。せめて生きているうちにまた全国大会にきたい」と話していたことを思い出しました。あれから5年、生きているうちに全国大会を実現してくれ感無量です。ただ、今回は準々決勝がオンラインでの実施となり、これをクリアしないと東京には行けないという状況ですが、とにかく全国大会に参加できたことがありがたく思います。

この間、6月12日、2年生・1年生が明石公園東芝生で“時のウィーク”のボランティアに関わり参加された方々への“第41回全国豊かな海づくり大会”PR活動に努めました。

7月13日、オンラインで開催された全国大会準々決勝の結果が発表されました。残念ながら、準決勝への進出はなりませんでしたが、ここまで頑張ってきた部員に感謝です。そして準決勝の結果の関係で、第104回全国高等学校野球選手権大会兵庫県大会閉会式の司会進行という大役が入ってきました。放送部としても初めて高校野球と関わることになりました。

8月8日、明石南高校で第3地区夏季リーダー研修会が開催されました。午前には第3地区から全国へ進出した生徒からの体験談を聴き、日頃の練習の取組みの見直しをすすめました。午後は角分科会に分かれ、少人数で読みの練習や番組作成について研修をすすめました。

8月16日、2年生・1年生が“第41回全国豊かな海づくり大会”動画制作のための取材で水産技術センター、大久保浄化センターへと足を運びました。新聞にも掲載され、生徒の励みになるとともに、豊かな海について考えさせられます。17日・18日で仮の動画を作成しました。これから正式なものの作成です。



8月19日、東播磨高校へ足を運び、久しぶりの夏の合同練習会です。日常の活動を見直す契機となりました。ります。総合文化祭へ向け、DJ講座もありました。

8月24日、第67回全国高等学校軟式野球選手権大会開始式明石・姫路の両球場で開催されました。例年の開会式が新型コロナ感染拡大のため、人数を減らす為に両球場の第1試合に登場する2チームによる開始式となりました。明石トーカロ球場は明石高校から最も近い球場ですが、これまでは縁がありませんでした。NHK杯アナウンス部門で全国に進出したことにより、初めて明石球場で高校野球の司会進行に携わることができました。さらに、8月29日には閉会式にも携わらせていただきました。顧問としては、この夏、本当に充実した時間を過ごすことができました。これまでは“夢”“他人事”だったことが実現しました。ありがたい時間でした。

2022年、5年ぶりにNHK杯全国高校放送コンテストに参加しました。 初めて高校野球に携わることができました。

9月10日には海づくり大会動画を完成させるため円陣スタジオへ足を運びました。プロと一緒に朝から夕方まで取り組みました。なかなか学校ではできない経験です。3分の動画を作成するために、取材6時間、編集21時間という時間をかけました。そして、10月16日、一か月前リハーサルです。本番へ向けて実際の会場になる明石市民会館で終日取り組みました。さらに、前日の11月12日にも前日リハーサルに終日取り組みました。この大会は両陛下の四行啓幸の一つで“必ず成功させなければならない大会”です。関係者の皆様の熱気も伝わってきます。そして、13日の本番、ひとり一人がこれまで取り組んできたものを活かして出演者としての責任を果たしてくれました。プロローグ、両陛下の御前でのメッセージ、エピローグと貴重な経験となりました。大会の様子はNHKで全国放送をされました。ご覧いただいた方々も多くあるのではないかと思います。この間、11月3日にはPTAと合同で“チューリップ球根植付”“サツマイモ収穫”、11月6日に開催された総合文化祭予選ではアナウンス部門で佳作1となりました。直後の総合文化祭決勝大会ではテレビドキュメント部門で奨励1となりました。そして、ようやく兼部ながら1年生2名が参加してくれました。巷ではワールドカップ・カタール大会で日本代表がドイツを倒し、スペインを倒して決勝トーナメントへ進出したことが話題となっています。ポチポチ年末を迎えます。来年がどのようなのか、“期待”と“不安”の中で時間が過ぎていきます。そんな中、今年最後の仕事として、銀座通りで流す“100周年広告30秒動画”の作成に取り組みました。

2023年 2月11日、3年ぶりにこの日に第18回第3地区放送フェスティバルが開催できました。研修の講師として、ラジオ関西の林真一郎アナウンサーにお越しいただきました。当たり前の事がありがたく感じられました。

そして、新年度、新型コロナも2類から5類に移行され、マスク着用も個人の判断となりました。この3年間、振り回されたコロナ禍とは何だったのかと思います。NHK杯については、6月4日に小野高校で開催された地区大会の結果、アナウンス部門：佳作1、朗読部門：佳作1、ラジオドキュメント部門：佳作1の結果でした。残念ながら、県大会への進出はできませんでした。6月17日・18日に開催された県大会ではテレビドキュメント部門：奨励1でした。とにかく、今できることに取り組んだという思いがします。

そして、新チームのスタートです。100周年DVDへの協力、福岡女学院大学の朗読コンクール・子どもの館の朗読コンクールからのスタートです。その中で、福岡女学院大学の朗読コンクールで第1次審査を通過し本審査に進むことができました。もちろん“明高初”の出来事です。2学期には、明石ケーブルテレビとコラボさせていただき、「部室 de 生放送」という番組をやらせていただきました。“生放送”など初めての体験です。放送されましたのでご覧いただいた方々も多いのではないかと思います。それぞれが試行錯誤しながら番組を作り上げたことは大きな経験となったと思います。次いで、体育大会進行、そして100周年記念式典への関わりであったという間に9月は過ぎて行きました。体育大会では、放送部が部対抗リレーに参加初めて参加しました。文化部として初の出来事です。当然、74回を数える体育大会で初の出来事です。ある意味、“革命”です。そして、11月3日にはPTAと農業作業、5日には県総合文化祭予選が開催されました。結果としては、アナウンス部門とラジオ部門(ドキュメント)で“佳作”となりました。続いて23日には総合文化祭決勝です。結果としては、テレビ

部門(ドキュメント)で“奨励”でした。さらに休む間もなく、24日には全国人権教育研修大会開会行事前日リハ、25日には本番と次々と業務をこなしていきました。大会関係の方々によると「高校生に任せて大丈夫か」との不安の声も多くあったようですが、大会後は「よくやってくれた。さすがだ。高校生、ありがとう」との言葉をいただきました。この時期、忙しかったですが、放送部としても、全国大会にも関わらせていただくことができ、感謝しています。気が付くともう年末です。来年はどのような年になるのか。いつものことながら“期待”と“不安”、そして“楽しみ”で一杯です。

2024年 例年のごとく、2月11日、第19回第3地区放送フェスティバルが開催できました。今回はエントリーが150名を超えたこともあり、アナウンス部門を探究ルーム、朗読部門を講堂という2会場での実施としました。明石ケーブルテレビの取材もありました。午前はミニコンテスト、午後は大江先生(東播磨)による研修(DJに関して)を開催しました。また、今回は、各地から若いOGにも参加してもらい、審査と共にOGからのアドバイスをしてもらいました。現役の放送部員の心に響くものがあればと思います。明石高校のミニコンテスト結果としてはアナウンス：佳作1、朗読：佳作2という結果となりました。インフルエンザやコロナの流行で発熱のため参加できなかったメンバーもありますが、出だしとしてはまあまあかなと思います。

そして、新年度、早速4月6日に音楽部の定期演奏会の司会進行に関わらせていただきました。この頃、校内は“桜”だけではなく“チューリップ”も満開になりました。4月8日の入学式では雨天が心配でしたが、入学式とクラス写真の間だけは雨が降ることなく開催することができました。年度初めということもあってか、なんだかんだとバタバタしながら、新入部員を待ちながら、早速、前年度から進めている明石文化国際財団、明石ケーブルテレビとのコラボ企画、明石市文芸祭市長賞作品朗読の準備です。部登録が過ぎ、今年は4名の新入部員がきてくれました。コラボ企画には新入生も含めて全員での取り組みになります。リハーサル(5/5)、本番(5/12)の日程です。5/5は午前にPTAと合同でガーデニング作業、午後にリハーサルです。



同時並行で、東播磨高校での合同練習会(4/28)に参加させていただき、NHK杯の準備もすすめました。なかなか多忙な時期です。でも、テレビ局のスタジオで収録することができたり、他校と交流することができたりと得る事も多くあったと思います。コラボ企画の番組は7月1日から1か月もの間、明石ケーブルテレビで放映されました。肝心のNHK杯ですが、地区大会(6/2 加古川東高校)ではアナウンス部門で入選1・佳作1、朗読部門で入選1・佳作3、ラジオドラマ部門で佳作2となり、県大会(6/15・16 神戸学院大学ポアアイキャンパス)ではアナウンス部門決勝で奨励1、テレビドキュメント部門で奨励2、研究発表部門で奨励1となりました。残念ながら“全国”へは届きませんでした。何かと同時並行の中、時間を見つけて部員ひとり一人がよく頑張ったと思います。一息つくと、次へ向けての準備が始まります。さて、2学期です。今年は例年になく残暑が厳しい日々がつづきました。その中で、10月3日に日程変更された体育大会は雨天のため中止となり、2日の予行のみ実施となりました。そして、10月27日にはPTAと芋掘り+チューリップ球根植付PART1を実施しました。なんとか来春にきれいな花を咲かせて欲しいものです。そして、11月3日、姫路大学で県総合文化祭予選です。参加できる全ての部門にはエントリーしましたが、結果として全て“賞なし”に終わりました。翌日の4日は、明石文化国際創生財団主催の朗読会で明石在住の作家、高浜直子先生の“ジローのトランペット”を朗読させていただきました。とにかくスムーズに進行することができて良かったです。続いて17日の県総合文化祭決勝では、テレビ番組部門(ドキュメント)で“佳作”となりました。この大会で得た唯一の賞となりました。いろいろとありましたが、とにかく棄権することなく規定違反で失格となることもなく審査をしていただくことができ、やれやれです。また、美術科2年のメンバーは5年ぶりにパリ研修旅行へ行くことができました。ようやく、師走、12月です。13日に学校のクリーン作戦に参加し、PTAと合同で、明高ガーデンや畑周辺の清掃活動に取り組みしました。落ち葉の処理だけではなく、溝掃除も行いました。さらに、チューリップ球根植付PART2として、P

ＴＡ会長の「溝掃除でとった土できれいなチューリップを咲かせる」大作戦で、掃除後にはその土を活用してチューリップの球根を植えてみました。春には、綺麗なチューリップで新入生を迎えることができますように。

2024 年、正直、想定外のことも含め、様々なことが次々とあった日々ですが部員の取り組み、ＰＴＡの皆さまのご協力を初め関係機関の皆さまのご協力をいただきながら何とか乗り越えることができました。年明けの２月には、第 20 回第 3 地区放送フェスティバルがあります。明石高校で 10 回目の開催となります。10 回目ということで一つの「区切りとなります。明石高校で開催する最後の放送フェスティバル、**AKASHI FINAL** となる予定です。納得できる成果があればと願います。

2025 年への思い 放送部、今後の展開は…？

2025 年は、11 月 3 日に県総合文化祭予選大会の会場校として大会を運営することが予定されています。4 年ぶりです。放送フェスティバル会場校としての役割は、2 月 11 日をもって一区切りが付きましたが、もう一つ大きな役割があります。2025 年度のメンバーでしっかりと取り組みましょう。

また、2024 年度を振り返ると、いわゆるコロナ禍が遠い昔の事のように思え、通常の活動がされています。ただ、例年になく熱中症が心配になる、とにかく暑い日々が続きました。そのような中、部員たちは“できる時”に“できる事”に取り組みました。何かと同時並行となる慌ただしい日々の中、時間を見つけて取り組みました。

“結果”としては十分なものは残せなかったかもしれませんが、とにかく様々なことに取り組んできた部員を誇りに思います。

時には、放送部らしからぬ活動にも取り組みました。また、これまでの取り組みを全否定されるような出来事もありました。その意味では、まさに真価が問われてきたのかと思います。その結果、放送部として今までできなかったこともできることがわかりました。

「これくらいでいいか」という程度で自己満足で終わるなら絶滅危惧種とならざるを得ないでしょうし、少人数でも「全国へチャレンジしたい」という気持ちで取り組むなら新たな“明高初”を実現できるだけでなく、部員自身の世界も広がります。これまで、様々なこと（時には“これが放送部？”といわれるようなこと）に取り組んできた経験を来年へ活かしてほしいと願います。

「できない、したくない」理由を探すヒマがあるなら、「どうすればできるか」考え実行する方が合理的！！

活動をしていれば、“良い事”も“悪い事”もある…でも、最後にはトータルとして“プラス”にする…そのために、いつ、何をすべきか、よく考える…絶対に諦めない！これが大切なこと。

ここ数年の状況・・・

兵庫県内の放送部の中における明石高校放送部の位置としては、「とにかく県大会レベルまでの大会の決勝には参加できている」「とりあえず決勝の常連にはなっている」「時々、ラグビーやバスケットなどの放送関係の依頼をいただいている（2020 年以降、全てキャンセルとなり、2024 年現在でも復活はまだ…）」というレベルです。

実際、ＮＨＫ杯や総合文化祭では、地区予選から決勝へ進出するだけでも大変なのですが、少しずつでも“決勝での結果”を求めて行けるよう進歩して欲しいと思っています。地区大会で 100 校を越える参加校のうち、県大会決勝まで参加できるのは 30 校くらいしかありません。とりあえず、その 30 校の仲間にはなっています。長い時間がかかりましたが、何とかここまでは来ています。2017 年には念願の“全国大会”へ出場することができました。長年の“夢”が少し実現しました。40 年の時間がかかりました。続く 2018 年、2019 年とも“全国大会”へ出場することはできませんでした。2020 年は新型コロナウイルス感染拡大のため中止となりました。2021 年はオンラインながらも開催されましたが届きませんでした。

そして、2022 年、“5 年ぶり”に全国大会へ進むことができました。まだまだ制約がある中でしたが、“全国大

会出場”が当たり前の部活動を目指していかないとならないと思います。とはいえ、2023 年、2024 年は全国大会へ進むことはできず、また“数十年の長い眠り”に入ってしまういかねないのかと懸念するところです。命が持ちません。

ただ、いずれにせよ部員には、今の状態に満足するのではなく、一人一人が「全国へ」の思い、「一步でも先へ」との思いを持って、“決勝で結果”が出せるように頑張ってもらいたいです。そうすることで生徒自身の世界が広がります。できない理由を探して何もしないのであれば平和かもしれません。しかし、進歩はしません。自己満足での進歩はありません。正直、時間の無駄です。

基本的に人間は進歩するものです。早いか遅いかの違いはあっても進歩するものです。そして、進歩しようと思うなら、多少忙しくとも、とにかくチャレンジをし続ける。そうすることが、生徒一人ひとりにとっても“可能性を広げる”ことになります。卒業後の進路にもつながります。何もしない状態に満足するなら“MOTTAINAI”“残念でした”で終わってしまいます。明石高校へ入学してきた意味が半減してしまいます。顧問の思いとしては、

GO in peace ! Be strong ! Never give up ! We can do it !

ということです。“全国への夢”、持ち続けましょう。あきらめなければチャンスはあります。

また、放送部は部員それぞれの可能性を広げる部活動でもありたいと思います。悪い事以外は、何でもチャレンジしてしていくという部活動であればと思います。

今までできなかったことを実現すると、時に、「そんなことしていれば先生が困る」云々という声も聴こえてきますが、この一言は論外だと考えます。もちろん、社会通念上許されないことはダメです。それは言うまでもありません。その上で、この声は、一見、的を得ているようで、これほど人の足を引っ張る物言いはないと考えます。まさにできる事を“するな”、“何もするな”と言っているようなものです。“やる気”を失います。部員である生徒にも大きくマイナスに作用するものと考えます。学校の部活動は、その時その時に状況が変わります。参加メンバーも変わります。当然、できる事も変わります。だからこそ、その時その時のできる事を模索すべきものと考えます。**学校は、生徒の可能性を伸ばすべきところであり、つぶすところではないはず**です。

受験生の皆さんへ

**～ 現在の社会で求められる“思考”“判断”“表現”が体现できるのは放送部
ついでに、探究活動・課題研究=番組作成に直結するメリットもあり ～**

放送部の生徒には、“放送室で活動する”だけではなく、“外で取材もする”放送部としてこれからも活動して欲しいと思っています。取材することが、アナウンスのネタになり、番組作成のネタになり、さらに放送部をアピールすることになり、なにより自分自身の視野を広げ、力を蓄積できることになりと利点が一杯です。時には、上手くいかないこともあります（むしろ、上手く行かないことの方が多いかもしれません）。しかし、**一度や二度の失敗であきらめては面白くないです。人生がMOTTAINAIです。失敗があるから成功もあります。何もかも上手く行く、失敗のない人生などあり得ないです。上手く行かないことがあるから上手く行った時の喜びも大きくなります。要は、「高校は“チャレンジする場”です。あきらめずに何度でもチャレンジしてみることで、そのチャレンジは誰かが見えています。チャレンジするからこそ分かることも多くあります。**ノーベル賞学者も語っていますが、「実験は 90%以上失敗するもの。その失敗をどう生かすかということが大切」ではないでしょうか。何も無いところからは何もできません。しかし、例えそれが失敗でも、何かキッカケさえあればそこから物事は広がって行きます。“夢”は広がってきます。

反面、もし「放送室で活動するだけ」「おしゃべりクラブ」で終わるようでは“夢の実現”“リベンジ”どころか「部活動の存続」に関わるかもしれません。個人としても“貴重な時間の浪費”になりかねません。「**高校生、忙しくて当たり前。その中でいかに時間を有効に使うのか。腕の見せ所**」です。

～ 魔法の一言…「放送部ですがお話を聞かせていただけますか」～

取材に行くとは言え、知らない所に行って大丈夫かと思ってしまうこともよくわかります。ただ、放送部には放送部にしかない魔法の一言があります。「放送部ですが…」ということでインタビューに行くと多くの所で対応してくれます。その結果、有名人に合えることも可能です。自分自身の世界を広げる事も可能です。もちろん拒否されることもあります。その時は「考える材料ができた」と思えば次に生かすことができます。このような便利な一言があるのは放送部だけです。

～ アナンス部門の特権？甲子園出場を目指せる！！～

甲子園＝野球部のイメージですが、NHK 杯県大会で上位 10 名に入ることによって高校野球に関わることができるのがアナンス部門の特権です。兵庫県からの全国出場枠は現在 12 ですから、当然、全国大会出場もとなります。2022 年度にアナンス部門で 9 位となり、全国高校軟式野球選手権の開閉会式にかかわらせていただきました。もちろん、“明石高校初”です。甲子園の全国高等学校野球選手権大会に関わることができるのは上位 4 名です。現在、明石高校野球部は 14 回の甲子園出場を誇りますが、15 回目となるのは放送部となるように取り組むことも面白いのではないかと思います。現在、これは“放送部の夢”ですが、チャレンジする価値はあると充分に思います。共にチャレンジしてみませんか？「どうせできないだろう」という思い込みを打破してみませんか？

このホームページを見ていただいている受験生のみなさん、あるべき高校生活をしたいと思っているみなさん、是非、明石高校へチャレンジしてください。共に“全国”を目指しましょう。“夢”の実現にチャレンジしましょう。明石高校放送部はまだまだ発展途上です。みなさんの“頑張り”でより良くなります。良くなるということは、皆さんの力が伸びたということです。皆さんの力を伸ばすフィールドがあります。

頑張れば“全国大会”へ参加することもできます！

甲子園への道もあります！NHK 杯アナンス部門で全国へ出場できれば甲子園が近付いてきます。

様々な体験をすることもできます！放送部は取材する部活！放送室に籠っているだけではありません。

諦めなければ何かできる！

ついでに、取材することは、知らぬ間に“(今、よく言われる)探究活動”をしていることにつながります。

次のページからは資料編となります。

明石高校放送部の歴史発掘！！～分った範囲で・・・～

平成24(2012)年以来、明石高校放送委員会（放送部）の歴史を発掘しようとして、いろいろと探してみましたが、2004年以前がさっぱり分からず、何とかもう少しと探してみたところ、ありました、見つかりました、探せばあるものです。今回も分かる範囲で記入していきます。当然、かなりの時間の経過で十分なものにはできません。お許しください。また、情報などありましたらお教えてください。

1949（昭和24）年、放送委員会スタート

残されている各種“周年記念誌”を探してみると、見つかりました。放送部は、学制改革により、明石中学校が明石高校となった翌年、昭和24年に放送委員会としてスタートしたことが分かりました。残念ながら、どのような活動をしていたのかということまでは分かりませんが、文化部の一つとして存在しています。その後、どのような経緯があったのは分かりませんが、昭和50年代には、放送委員会と放送部が並立する時代があり、いつしか生徒会執行部の報道機関としての放送委員会という位置づけになりました。何と、規定によれば文化部ではなく、あくまで生徒会執行部の報道機関という扱いですので、規定上は各種大会に出れば規定違反の状態になるという状態にありました。しかしながら、記録を見ると、大会には番組部門でホソボソと参加しているという状況が続いていたようです。平成10年には全国大会まであと一歩というところまで行ったこともあったようです。しかし、この状況は変わりません。平成21年頃からは、部員も増え、各種大会への参加も増えてきました。しかも、全ての学校行事に関わることができるようになってきました。ようやく規定が変わったのが、平成26年。翌平成27年からは、放送委員会は、規定上も報道機関ではなく、文化部として活動することになります。名称についても、放送委員会ではなく、放送部となります。

2015年4月、“放送委員会”は“放送部”へと進化しました。

ということで、以後は“放送部”です。

令和の時代を迎えて・・・放送部の悩み・・・

平成の半ばより“少子高齢化”が叫ばれ、今や人口の27%以上が65歳以上という超高齢社会となっています。それに伴い、生徒数も減少し学校の統廃合も進むという状況です。すると、当り前のことですが、各部活動に参加する部員数も減少するということになります。

ただ現実問題として、近隣校をみるとは3年生のみということで、夏以降の大会に参加できない状況の学校や部員がいない学校、そもそも放送部が無い学校が目立つようになってきています。顧問として、大きな危機感を持っています。もう10年以上も前になると思いますが、当時の教育長が「何事も最悪のケースを考えて行動せよ。そうすれば何事にも落ち着いて対応できる」とおっしゃっていたことを憶えています。今はまさにその時期かもしれません。今、部員がいるから大丈夫ではなく、これからは部員が卒業する時に「放送部に参加して良かった」と思えるように、部員とともに諦めずに取り組んでやっていこうと改めて思います。

受検生の皆さん

明石高校が全国へ行くために、皆さんの力が必要です。

皆さんの経験値を高める活動ができるのも放送部です。

野球部よりも先に甲子園出場を目指しましょう。

共に“全国への夢”を実現させましょう！！

これまでの常識を変えましょう！！

顧問・部員数など・・・

	顧問	3 年 生	2 年 生	1 年 生	N H K 杯会場 上 段：地区大会 下 段：県大会	県総文会場 上 段：予選 下 段：決勝
1971	＊この年以前は部活顧問不明					
1972 (S47)	田浦・小倉 ・飯尾	25 回生 男？女？	26 回生 男？女？	27 回生 男？女？	？ ？	？ ？
1973 (S48)	藤原・小倉 ・田浦・大越智	26 回生 男？女？	27 回生 男？女？	28 回生 男？女？	？ ？	？ ？
1974 (S49)	小倉・田浦 ・大越智・押原	27 回生 男？女？	28 回生 男？女？	29 回生 男？女？	？ ？	？ ？
1975 (S50)	小倉・田浦 ・大越智・押原	28 回生 男？女？	29 回生 男？女？	30 回生 男？女？	？ ？	？ ？
1976 (S51)	小倉・田浦・押原・ 大越智・川口	29 回生 男？女？	30 回生 男？女？	31 回生 男？女？	？ ？	？ ？
1977 (S52)	小倉・田浦 ・大越智・○田	30 回生 男？女？	31 回生 男？女？	32 回生 男？女？	？ ？	？ ？
1978 (S53)	小倉・楞野 ・田浦・亀田	31 回生 男？女？	32 回生 男？女？	33 回生 男？女？	？ ？	？ ？
1979 (S54)	小倉・亀田 ・十名・永田	32 回生 男？女？	33 回生 男？女？	34 回生 男？女？	？ ？	？ ？
1980 (S55)	？	33 回生 男？女？	34 回生 男？女？	35 回生 男？女？	？ ？	？ ？
1981 (S56)	？	34 回生 男？女？	35 回生 男？女？	36 回生 男？女？	？ ？	？ ？
1982 (S57)	？	35 回生 男？女？	36 回生 男？女？	37 回生 男？女？	？ ？	？ ？
1983 (S58)	？	36 回生 男？女？	37 回生 男？女？	38 回生 男？女？	？ ？	？ ？
1984 (S59)	？	37 回生 男？女？	38 回生 男？女？	39 回生 男？女？	？ ？	？ ？
1985 (S60)	？	38 回生 男？女？	39 回生 男？女？	40 回生 男？女？	？ ？	？ ？
1986 (S61)	？	39 回生 男？女？	40 回生 男？女？	41 回生 男？女？	？ ？	？ ？
1987 (S62)	上村 ・藤原(勝)	40 回生 男？女？	41 回生 男？女？	42 回生 男？女？	？ ？	？ ？
1988 (S63)	？	41 回生 男？女？	42 回生 男？女？	43 回生 男？女？	？ ？	？ ？
1989 (H 元)	藤原(勝) ・小林	42 回生 男？女？	43 回生 男？女？	44 回生 男？女？	？ ？	？ ？
1990	藤原(勝)	43 回生	44 回生	45 回生	？	？

(H2)	・小林	男？女？	男？女？	男？女？	？	？
1991 (H3)	藤原(勝) ・小林	44 回生 男？女？	45 回生 男？女？	46 回生 男？女？	？ ？	？ ？
1992 (H4)	？	45 回生 男？女？	46 回生 男？女？	47 回生 男？女？	？ ？	？ ？
1993 (H5)	小林・黒部	46 回生 男 0 女 4	47 回生 男 0 女 7	48 回生 男 0 女 3	？ ？	？ ？
1994 (H6)	小林・黒部	47 回生 男 0 女 5	48 回生 男 0 女 5	49 回生 男 0 女 2	？ ？	？ ？
1995 (H7)	小林・倉田 ・竹田	48 回生 男 0 女 5	49 回生 男 0 女 2	50 回生 男 1 女 0	明石高校 ？	？ ？
1996 (H8)	小林・倉田 ・竹田・菅野(陽)	49 回生 男 0 女 3	50 回生 男 0 女 0	51 回生 男 3 女 3	？ ？	？ ？
1997 (H9)	小林・倉田 ・浦本・竹田	50 回生 男 0 女 0	51 回生 男 2 女 1 0	52 回生 男 0 女 3	？ ？	？ ？
1998 (H10)	小林・菅野	51 回生 男 1 女 1 1	52 回生 男 0 女 3	53 回生 男 0 女 0	？ ？	？ ？
1999 (H11)	小林・大倉	52 回生 男 0 女 4	53 回生 男 0 女 2	54 回生 男 0 女 2	？ ？	？ ？
2000 (H12)	小林・高橋	53 回生 男 0 女 4	54 回生 男 0 女 3	55 回生 男 0 女 4	？ ？	？ ？
2001 (H13)	高橋・大森 ・山本(茂)	54 回生 男 0 女 3	55 回生 男 0 女 4	56 回生 男 1 女 0	？ ？	？ ？
2002 (H14)	高橋・倉田 ・植野	55 回生 男 0 女 3	56 回生 男 0 女 2	57 回生 男 0 女 0	？ ？	？ ？
2003 (H15)	？	56 回生 男？女？	57 回生 男？女？	58 回生 男？女？	？ ？	？ ？
2004 (H16)	植野・倉田 ・高橋	57 回生 男 0 女 1	58 回生 男 1 女 7	59 回生 男 0 女 2	？ ？	？ ？
2005 (H17)	植野・倉田 ・高橋	58 回生 男 3 女 7	59 回生 男 0 女 1	60 回生 男 0 女 0	？ ？	？ ？
2006 (H18)	植野・岩崎 ・倉田	59 回生 男 2 女 3	60 回生 男 0 女 0	61 回生 男 0 女 0	？ ？	？ ？
2007 (H19)	植野・倉田 ・山中	60 回生 男 0 女 0	61 回生 男 0 女 5	62 回生 男 0 女 0	小野高校 ？	？ ？
2008 (H20)	倉田・山中・深	61 回生 男 0 女 6	62 回生 男 2 女 0	63 回生 男 1 女 2	淡路三原高校 甲南大学	豊岡高校 イーグレ姫路
2009 (H21)	山中・丹野・奥	62 回生 男 3 女 0	63 回生 男 2 女 2	64 回生 男 3 女 1	高砂南高校 甲南大学	加古川東高校 三木市民会館
2010 (H22)	山中・奥	63 回生 男 2 女 2	64 回生 男 3 女 1	65 回生 男 0 女 5	明石高校 神戸学院大学 ボーアイ	神戸高校 流通科学大学

2011 (H23)	山中・奥	64 回生 男 3 女 1	65 回生 男 0 女 4	66 回生 男 1 女 5	小野高校 神戸学院大学 ボーアイ	雲雀丘学園高校 西宮市民会館
2012 (H24)	山中・奥	65 回生 男 0 女 4	66 回生 男 1 女 6	67 回生 男 5 女 4	津名高校 神戸学院大学 ボーアイ	龍野北高校 姫路市市民会館
2013 (H25)	山中・丹野	66 回生 男 1 女 7	67 回生 男 5 女 3	68 回生 男 2 女 5	高砂高 甲南大学	明石高校 小野市民会館
2014 (H26)	山中・津國 ・丹野	67 回生 男 4 女 3	68 回生 男 2 女 5	69 回生 男 1 女 6	明石南高校 甲南大学	甲南女子高校 神戸芸術工科大学
2015 (H27)	山中・丹野 ・山本和	68 回生 男 2 女 5	69 回生 男 1 女 6	70 回生 男 0 女 2	三木高校 甲南大学	尼崎稲園高校 大阪芸術大学伊丹
2016 (H28)	山中・山本和 ・阪本	69 回生 男 1 女 5	70 回生 男 0 女 3	71 回生 男 3 女 4	津名高校 甲南大学	琴丘高校 姫路市市民会館
2017 (H29)	山中・山本和 ・岡部	70 回生 男 0 女 3	71 回生 男 3 女 4	72 回生 男 0 女 6	加古川東高校 甲南大学	明石高校 明石市民会館
2018 (H30)	山中・山本和 ・岡部	71 回生 男 3 女 4	72 回生 男 0 女 5	73 回生 男 1 女 5	明石北高校 甲南大学	神戸星城高校 甲南女子大学
2019 (H31=R 元)	山中・山本和 ・岡部	72 回生 男 0 女 4	73 回生 男 0 女 5	74 回生 男 0 女 3	小野高校 甲南大学	西宮香風高校 東りいたみホール
2020 (R2)	山中・櫻井	73 回生 男 0 女 5	74 回生 男 0 女 2	75 回生 男 0 女 1 2	新型コロナウイルス感 染拡大のため中止 淡路三原高校 神戸学院大学 ポートアイランド	姫路大学 姫路市市民会館
2021 (R3)	山中・櫻井	74 回生 男 0 女 2	75 回生 男 0 女 1 2	76 回生 男 1 女 5	兵庫大学 神戸学院大学 ポートアイランド	明石高校 三木市文化会館
2022 (R4)	山中・高尾	75 回生 男 0 女 1 1	76 回生 男 1 女 5	77 回生 男 0 女 3	明石南高校 神戸学院大学 ポートアイランド	神戸星城高校 神戸松蔭女子学院 大学
2023 (R5)	山中・高尾	76 回生 男 1 女 5	77 回生 男 0 女 3	78 回生 男 1 女 5	小野高校 神戸学院大学 ポートアイランド	大阪芸術大学伊丹 西宮市民会館
2024 (R6)	山中・高尾	77 回生 男 0 女 3	78 回生 男 1 女 5	79 回生 男 2 女 2	淡路地区放送部減の ため開催困難 加古川東高校 神戸学院大学 ポートアイランド	姫路大学 高砂市文化会館
2025 (R7)	?	78 回生 男 1 女 5	79 回生 男 2 女 2	80 回生 男? 女?	明石北高校 神戸学院大学 ポートアイランド (予定)	明石高校 高砂市文化会館 (予定)

* 今の所ここまでで精一杯状態です。まだどこかを探せば何か分かることもあるとは思いますが・・・情報が
ありましたら教えてください。申し訳ありません。

大会での記録(賞を得たもの)など、これ以前のものは放送室に残っていません・・・どこにあるのやら・・・

昭和 47 年 6 月 18 日	第 10 回兵庫県高等学校 放送コンテスト東播地区予選	ラジオ番組部門優勝	兵庫県高等学校教育研究会 視聴覚部会長 廣瀬卯一
昭和 50 年 8 月 31 日	第 2 回テーブ録音コンテスト	録音技術賞 放送部実験的グループ A 班	神戸新聞文化センター 株式会社三和商会
昭和 50 年 8 月 31 日	第 2 回テーブ録音コンテスト	奨励賞 放送劇・星新一原作「支出と収入」 放送部 1 年 B 班	神戸新聞文化センター 株式会社三和商会
昭和 51 年 6 月 13 日	第 23 回 NHK 杯全国高校放送コ ンテスト兵庫県大会地区予選	ラジオテーマ I 部門 入賞	兵庫県高等学校教育研究会 視聴覚部会長 市橋 勉
昭和 53 年 6 月 10 日	第 25 回 NHK 杯全国高校放送コ ンテスト兵庫県大会地区予選	ラジオテーマ II 部門 入選	兵庫県高等学校教育研究会 視聴覚部会長 水池誠一
昭和 53 年 11 月 26 日	第 23 回兵庫県高校放送コンテ ストジュニア大会	ラジオ番組制作テーマ II 部門 佳作「戦争を知らない子ども達」	兵庫県高等学校教育研究会 視聴覚部会長 水池誠一
昭和 55 年 6 月 8 日	第 27 回 NHK 杯全国高校放送コ ンテスト兵庫県大会地区予選	ラジオ自由部門 ? 「瞬間」	兵庫県高等学校教育研究会 視聴覚部会長 水池誠一
昭和 55 年 9 月 8 日	ラジオ関西企画 “甲子園への道” 参加	優秀作品賞	株式会社ラジオ関西 制作局長 神原久孝
昭和 56 年 6 月 7 日	第 28 回 NHK 杯全国高校放送コ ンテスト兵庫県大会地区予選	ラジオ自由部門 佳作 「応援歌は・・・？」	兵庫県高等学校教育研究会 視聴覚部会長 水池誠一
昭和 56 年 9 月 10 日	ラジオ関西企画 “甲子園への道” 参加	優秀賞	株式会社ラジオ関西企画 取締役社長 阪上 豊
昭和 57 年 2 月 11 日	兵庫県高校放送コンテスト ジュニア大会	ラジオ番組課題部門 銅賞	兵庫県高等学校教育研究会 視聴覚部会長 水池誠一
昭和 57 年 6 月 6 日	第 29 回 NHK 杯全国高校放送コ ンテスト兵庫県大会地区予選	ラジオ番組自由部門 佳作「もう一つの野球部」	兵庫県高等学校教育研究会 視聴覚部会長 水池誠一
昭和 57 年 6 月 6 日	第 29 回 NHK 杯全国高校放送コ ンテスト兵庫県大会地区予選	ラジオ番組自由部門 佳作「カムバック明高祭」	兵庫県高等学校教育研究会 視聴覚部会長 水池誠一
昭和 59 年 6 月 10 日	第 31 回 NHK 杯全国高校放送コ ンテスト兵庫県大会地区予選	ラジオ課題部門 第 2 位「親友ってなあに？」	兵庫県高等学校教育研究会 視聴覚部会長 川村治之
昭和 59 年 6 月 10 日	第 31 回 NHK 杯全国高校放送コ ンテスト兵庫県大会地区予選	ラジオ課題部門 第 3 位「チャイ夢」	兵庫県高等学校教育研究会 視聴覚部会長 川村治之
昭和 59 年 6 月 10 日	第 31 回 NHK 杯全国高校放送コ ンテスト兵庫県大会地区予選	ラジオ自由部門 佳作「鏡の消えた日」	兵庫県高等学校教育研究会 視聴覚部会長 川村治之
昭和 59 年 6 月 24 日	第 31 回 NHK 杯全国高校放送コ ンテスト兵庫県大会決勝	ラジオ番組課題部門佳作 「親友ってなあに？」	兵庫県高等学校教育研究会 視聴覚部会
昭和 59 年 9 月 14 日	ラジオ関西企画 “甲子園への道” 参加	最優秀賞	株式会社ラジオ関西 取締役社長 阪上 豊
昭和 60 年 6 月 9 日	第 32 回 NHK 杯全国高校放送コ ンテスト兵庫県大会地区予選	ラジオ課題部門 佳作「A I M」	兵庫県高等学校教育研究会 視聴覚部会長 川村治之
平成 2 年 11 月 18 日	兵庫県高校放送コンテスト ジュニア大会	ラジオ番組制作自由部門 佳作「変わりつつある制服」	兵庫県高等学校教育研究会 視聴覚部会長 永井万介
平成 3 年 6 月 2 日	第 38 回 NHK 杯全国高校放送コ ンテスト兵庫県大会地区予選	ラジオ自由部門 佳作「？」	兵庫県高等学校教育研究会 視聴覚部会長 永井万介
平成 5 年 6 月 6 日	第 40 回 NHK 杯全国高校放送コ ンテスト兵庫県大会地区予選	ラジオ自由部門 入選「I!m Every Woman」	兵庫県高等学校教育研究会 視聴覚部会長 松浦 潔
平成 5 年 6 月 6 日	第 40 回 NHK 杯全国高校放送コ ンテスト兵庫県大会地区予選	ラジオ課題部門 佳作「両手いっぱい的好奇心」	兵庫県高等学校教育研究会 視聴覚部会長 松浦 潔
平成 5 年 11 月 3 日	兵庫県高等学校総合文化祭放送文化部門 /高校放送缶テストジュニア大会	ラジオ番組自由部門 入選「あきかんものがたり」	兵庫県高等学校教育研究会 視聴覚部会長 松浦 潔
平成 5 年 11 月 21 日	兵庫県高等学校総合文化祭放送文化部門 /高校放送缶テストジュニア大会	ラジオ番組自由部門 銅賞「あきかんものがたり」	兵庫県高等学校教育研究会 視聴覚部会長 松浦 潔
平成 6 年 6 月 5 日	第 41 回 NHK 杯全国高校放送コ ンテスト兵庫県大会地区予選	ラジオ番組課題部門 第 1 位「夢の階段」	兵庫県高等学校教育研究会 視聴覚部会長 杉田靖興

平成6年6月5日	第41回NHK杯全国高校放送コンテスト兵庫県大会地区予選	ラジオ番組自由部門 第1位「やさしさをもう一度」	兵庫県高等学校教育研究会 視聴覚部会長 杉田靖興
平成6年11月3日	第18回兵庫県高等学校総合文化祭・放送文化部門大会予選	ラジオ番組制作自由部門 佳作「ポパイからフェミオへ」	兵庫県高等学校教育研究会 視聴覚部会長 杉田靖興
平成6年11月20日	第18回兵庫県高等学校総合文化祭・放送文化部門大会決勝大会	テレビ番組制作部門 佳作「まあくて黄色いものなあんた」	兵庫県高等学校教育研究会 視聴覚部会長 杉田靖興
平成7年6月4日	第42回NHK杯全国高校放送コンテスト兵庫県大会地区予選	ラジオ番組自由部門 入選「変身サロン」	兵庫県高等学校教育研究会 視聴覚部会長 杉田靖興
平成7年6月4日	第42回NHK杯全国高校放送コンテスト兵庫県大会地区予選	ラジオ番組課題部門 入選「少年少女よでっかい大使を抱け」	兵庫県高等学校教育研究会 視聴覚部会長 杉田靖興
平成7年6月4日	第42回NHK杯全国高校放送コンテスト兵庫県大会地区予選	ラジオ番組自由部門 入選「見上ゲル男」	兵庫県高等学校教育研究会 視聴覚部会長 杉田靖興
平成10年6月7日	第45回NHK杯全国高校放送コンテスト兵庫県大会地区予選	創作ラジオドラマ部門 佳作「山のサル」	兵庫県高等学校教育研究会 視聴覚部会長 中島 寛
平成10年6月7日	第45回NHK杯全国高校放送コンテスト兵庫県大会地区予選	創作ラジオドラマ部門 入選「船旅行」	兵庫県高等学校教育研究会 視聴覚部会長 中島 寛
平成10年6月7日	第45回NHK杯全国高校放送コンテスト兵庫県大会地区予選	ラジオ番組第Ⅱ部門 入選「明石海峡」	兵庫県高等学校教育研究会 視聴覚部会長 中島 寛
平成10年6月21日	第45回NHK杯全国高校放送コンテスト兵庫県大会決勝大会	ラジオ番組第Ⅱ部門 第4位「明石海峡」	兵庫県高等学校教育研究会 視聴覚部会長 中島 寛
平成18年11月3日	第30回兵庫県高等学校総合文化祭放送文化部門大会予選	ラジオ番組小部門(ドラマ) 佳作「心の瞳」	兵庫県高等学校教育研究会 視聴覚部会長 服部雅幸
平成19年6月3日	第54回NHK杯全国高校放送コンテスト兵庫県大会地区予選	創作ラジオドラマ部門 佳作「答えの出るえんぴつ」	兵庫県高等学校教育研究会 視聴覚部会長 服部雅幸
平成22年6月6日 明石高校	第57回NHK杯全国高校放送コンテスト兵庫県大会地区予選	創作ラジオドラマ部門 佳作「なんくるなんさ〜大丈夫」	兵庫県高等学校教育研究会 視聴覚部会長 喜多勝己
平成23年6月5日 小野高校	第58回NHK杯全国高校放送コンテスト兵庫県大会地区予選	創作ラジオドラマ部門 佳作「decode〜デコード〜」 佳作「ありのままで」	兵庫県高等学校教育研究会 視聴覚部会長 小林勝美
		アナウンス部門：佳作1 朗読部門：佳作1	兵庫県高等学校教育研究会 視聴覚部会長 小林勝美
平成24年6月3日 津名高校	第59回NHK杯全国高校放送コンテスト兵庫県大会地区予選	アナウンス部門：入選1佳作1 朗読部門：佳作2	兵庫県高等学校教育研究会 視聴覚部会長 小林二城
平成25年6月2日 高砂高校	第60回NHK杯全国高校放送コンテスト兵庫県大会地区予選	アナウンス部門：入選2佳作1 朗読部門：入選1 佳作1	兵庫県高等学校教育研究会 視聴覚部会長 小林二城
平成25年6月16日 甲南大学	第60回NHK杯全国高校放送コンテスト兵庫県大会決勝	研究発表部門 奨励賞「昼放送について」	兵庫県高等学校教育研究会 視聴覚部会長 小林二城
平成26年6月1日 明石南高校	第61回NHK杯全国高校放送コンテスト兵庫県大会地区予選	ラジオドラマ部門 佳作「清くない一票」 アナウンス部門：佳作1 朗読部門：佳作4	兵庫県高等学校教育研究会 視聴覚部会長 小林二城 兵庫県高等学校教育研究会 視聴覚部会長 小林二城
平成26年6月15日 甲南大学	第61回NHK杯全国高校放送コンテスト兵庫県大会準決勝	創作テレビ部門 奨励賞 「オカルト研究会マル秘映像録」	兵庫県高等学校教育研究会 視聴覚部会長 小林二城
平成26年11月2日 甲南女子高校	第38回兵庫県高等学校総合文化祭放送文化部門予選	朗読部門：入選1佳作1	兵庫県高等学校教育研究会 視聴覚部会長 小林二城
平成26年11月16日 神戸芸術工科大学	第38回兵庫県高等学校総合文化祭放送文化部門決勝大会	テレビ部門 奨励賞 「からあげVSカツサンド」	兵庫県高等学校教育研究会 視聴覚部会長 小林二城
平成27年6月7日 三木高校	第62回NHK杯全国高校放送コンテスト兵庫県大会地区予選	朗読部門：佳作3 ラジオドラマ部門：入選 「トモダチコウセイ」	兵庫県高等学校教育研究会 視聴覚部会長 小林二城

平成 27 年 11 月 3 日 尼崎稲園高校	第 39 回兵庫県高等学校総合文化祭放送文化部門予選	朗読部門：佳作 1 ラジオドラマ部門：佳作 「友神様のいうとおり」	兵庫県高等学校教育研究会 視聴覚部会長 小林二城
平成 28 年 6 月 5 日 津名高校	第 63 回 NHK 杯全国高校放送コンテスト兵庫県大会地区予選	ラジオドラマ部門：佳作 「勇気をだして」 アナウンス部門：佳作 1 朗読部門：入選 2	兵庫県高等学校教育研究会 視聴覚部会長 小林二城
平成 28 年 6 月 18 日 甲南大学	第 63 回 NHK 杯全国高校放送コンテスト兵庫県大会準決勝	朗読部門：決勝進出 1	兵庫県高等学校教育研究会 視聴覚部会長 小林二城
平成 28 年 6 月 19 日 甲南大学	第 63 回 NHK 杯全国高校放送コンテスト兵庫県大会決勝	朗読部門：奨励賞	兵庫県高等学校教育研究会 視聴覚部会長 小林二城
平成 28 年 11 月 3 日 琴丘高校	第 40 回兵庫県高等学校総合文化祭放送文化部門予選	朗読部門：入選 1	兵庫県高等学校教育研究会 視聴覚部会長 小林二城
平成 28 年 11 月 20 日 姫路市市民会館	第 40 回兵庫県高等学校総合文化祭放送文化部門決勝大会	朗読部門：奨励賞 テレビ部門：奨励賞 「植え続ける理由」	兵庫県高等学校教育研究会 視聴覚部会長 小林二城
平成 29 年 6 月 4 日 加古川東高校	第 64 回 NHK 杯全国高校放送コンテスト兵庫県大会地区予選	ラジオドラマ部門：佳作 2 「ことばとところ」 「教えて！美術科生」 朗読部門：入選 2・佳作 1	兵庫県高等学校教育研究会 視聴覚部会長 小林二城
平成 29 年 6 月 17 日 甲南大学	第 64 回 NHK 杯全国高校放送コンテスト兵庫県大会準決勝	朗読部門：決勝進出 1 テレビドキュメント部門：奨励賞 1「創造する未来」	兵庫県高等学校教育研究会 視聴覚部会長 小林二城
平成 29 年 6 月 18 日 甲南大学	第 64 回 NHK 杯全国高校放送コンテスト兵庫県大会決勝	朗読部門：優秀賞 1	兵庫県高等学校教育研究会 視聴覚部会長 小林二城
平成 29 年 7 月 25 日 国立オリンピック記念 青少年総合センター	第 64 回 NHK 杯全国高校放送コンテスト準々決勝	準決勝進出：0	
平成 29 年 11 月 3 日 明石高校	第 41 回兵庫県高等学校総合文化祭放送文化部門予選	朗読部門：佳作 1	兵庫県高等学校教育研究会 視聴覚部会長 小林二城
平成 29 年 11 月 19 日 明石市民会館アワー ズホール	第 41 回兵庫県高等学校総合文化祭放送文化部門決勝	テレビ部門：奨励賞 「密着！生徒会の 10 時間」	兵庫県高等学校教育研究会 視聴覚部会長 小林二城
平成 30 年 6 月 3 日 明石北高校	第 65 回 NHK 杯全国高校放送コンテスト兵庫県大会地区予選	アナウンス部門：佳作 3 朗読部門：佳作 3	兵庫県高等学校教育研究会 視聴覚部会長 森島久幸
平成 30 年 6 月 16 日 甲南大学	第 65 回 NHK 杯全国高校放送コンテスト兵庫県大会準決勝	研究発表部門：奨励賞 1 「放送部と生徒会の関係」	兵庫県高等学校教育研究会 視聴覚部会長 森島久幸
平成 30 年 11 月 4 日 神戸星城高校	第 42 回兵庫県高等学校総合文化祭放送文化部門予選	朗読部門：佳作 1	兵庫県高等学校教育研究会 視聴覚部会長 森島久幸
平成 30 年 11 月 18 日 甲南女子大学	第 42 回兵庫県高等学校総合文化祭放送文化部門決勝	テレビドキュメント部門：奨励賞 「繋げ！未来のために」	兵庫県高等学校教育研究会 視聴覚部会長 森島久幸
令和元年 6 月 2 日 小野高校	第 66 回 NHK 杯全国高校放送コンテスト兵庫県大会地区予選	朗読部門：入選 1 佳作 3 ラジオドキュメント部門：佳作「チャイム」	兵庫県高等学校教育研究会 視聴覚部会長 森島久幸
令和元年 6 月 16 日 甲南大学	第 66 回 NHK 杯全国高校放送コンテスト兵庫県大会準決勝	朗読部門：決勝進出 0 研究発表部門：奨励賞 1 「最適解とは？」	兵庫県高等学校教育研究会 視聴覚部会長 森島久幸

令和元年 11 月 3 日 西宮香風高校	第 43 回兵庫県高等学校総合文化祭放送文化部門予選	朗読部門：佳作 1	兵庫県高等学校教育研究会 視聴覚部会長 森島久幸
令和 2 年 6 月 7 日 淡路三原高校 中止	第 67 回 NHK 杯全国高校放送コンテスト兵庫県大会地区予選 中止	新型コロナウイルス感染拡大のためNHK杯全て中止	兵庫県高等学校教育研究会 視聴覚部会長 小倉裕史
令和 2 年 6 月 20 日 東播磨高校	“2020 兵庫大会記念 放送コンテスト”（非公開審査）	アナウンス部門：予選 2 朗読部門：予選 5	兵庫県高等学校教育研究会 視聴覚部会長 小倉裕史
令和 2 年 11 月 3 日 姫路大学	第 44 回兵庫県高等学校総合文化祭放送文化部門予選	アナウンス部門：佳作 1 ラジオドキュメント部門：佳作「なんでだろう？学校の不思議…」	兵庫県高等学校教育研究会 視聴覚部会長 小倉裕史
令和 2 年 11 月 22 日 姫路市市民会館	第 43 回兵庫県高等学校総合文化祭放送文化部門決勝	テレビドキュメント部門：奨励賞「夏休みを返せ！」	兵庫県高等学校教育研究会 視聴覚部会長 小倉裕史
令和 2 年 11 月 29 日 NHK 神戸放送局	第 28 回兵庫県立こどもの館朗読コンクール（本審査）	高校生の部：審査員特別賞	兵庫県立こどもの館館長 横山佐和子
令和 3 年 6 月 6 日 兵庫大学	第 68 回 NHK 杯全国高校放送コンテスト兵庫県大会地区予選	アナウンス部門：佳作 2 朗読部門：佳作 4	兵庫県高等学校教育研究会 視聴覚部会長 小倉裕史
令和 3 年 6 月 19 日 神戸学院大学ポート アイランドキャンパス	第 68 回 NHK 杯全国高校放送コンテスト兵庫県大会準決勝	テレビドラマ部門：奨励賞 1「学校が不思議」 テレビドキュメント部門：奨励賞 2「GAP!」「TOMY」 研究発表部門：奨励賞 1「何とかなる放送部活動」	兵庫県高等学校教育研究会 視聴覚部会長 小倉裕史
令和 3 年 11 月 3 日 明石高校	第 45 回兵庫県高等学校総合文化祭放送文化部門予選	アナウンス部門：入選 1 佳作 1 朗読部門：佳作 1 ラジオドキュメント部門：佳作「心の距離はノーディスタンス」	兵庫県高等学校教育研究会 視聴覚部会長 小倉裕史
令和 3 年 11 月 23 日 三木市文化会館	第 45 回兵庫県高等学校総合文化祭放送文化部門決勝大会	アナウンス部門：奨励賞 1 テレビドキュメント部門：奨励賞「やっぱり学校が不思議」	兵庫県高等学校教育研究会 視聴覚部会長 小倉裕史
令和 3 年 11 月 28 日 NHK 神戸放送局	第 29 回兵庫県立こどもの館朗読コンクール（本審査）	高校生の部：こどもの館賞	兵庫県立こどもの館館長 横山佐和子
令和 4 年 6 月 5 日 明石南高校	第 69 回 NHK 杯全国高校放送コンテスト兵庫県大会地区予選	アナウンス部門：入選 2 佳作 1 朗読部門：入選 1 佳作 1 ラジオドキュメント部門：入選 1 「僕らのスマホ革命」	兵庫県高等学校教育研究会 視聴覚部会長 小倉裕史
令和 4 年 6 月 18 日 神戸学院大学ポート アイランドキャンパス	第 69 回 NHK 杯全国高校放送コンテスト兵庫県大会準決勝	アナウンス部門：決勝進出 1 朗読部門：決勝進出 1 テレビドキュメント部門：奨励賞 2 「学校が不思議です。」 「サツマイモ大作戦前編」 研究発表部門：奨励賞 1 「放送部だからできること」	兵庫県高等学校教育研究会 視聴覚部会長 小倉裕史
令和 4 年 6 月 19 日	第 69 回 NHK 杯全国高校放送コンテスト兵庫県大会決勝	アナウンス部門：優秀賞 朗読部門：奨励賞	兵庫県高等学校教育研究会 視聴覚部会長 小倉裕史

神戸学院大学ポート アイランドキャンパス		ラジオドキュメント部門： 奨励賞「僕らのスマホ革命」	
令和4年7月7～9日 オンライン	第69回NHK杯全国高校放送コ ンテスト準々決勝	アナウンス部門：準決勝ならず	
令和4年11月6日 神戸星城高校	第46回兵庫県高等学校総合文 化祭放送文化部門予選	アナウンス部門：佳作1 ラジオドキュメント部門： 規定違反	兵庫県高等学校教育研究会 視聴覚部会長 小倉裕史
令和4年11月23日 神戸松蔭女子学院大学	第46回兵庫県高等学校総合文 化祭放送文化部門決勝大会	テレビドキュメント部門： 奨励賞1 「放送部員増加計画」	兵庫県高等学校教育研究会 視聴覚部会長 小倉裕史
令和5年6月4日 小野高校	第70回NHK杯全国高校放送コ ンテスト兵庫県大会地区予選	アナウンス部門：佳作1 朗読部門：佳作1 ラジオドキュメント部門： 佳作1 「知られざる魅力」	兵庫県高等学校教育研究会 視聴覚部会長 小倉裕史
令和5年6月17日 神戸学院大学ポート アイランドキャンパス	第70回NHK杯全国高校放送コ ンテスト兵庫県大会準決勝	テレビドキュメント部門： 奨励賞1 「50分の価値」	兵庫県高等学校教育研究会 視聴覚部会長 小倉裕史
令和5年11月5日 大阪芸術大学短期大 学部伊丹校舎	第47回兵庫県高等学校総合文 化祭放送文化部門予選	アナウンス部門：佳作1 ラジオドキュメント部： 佳作1「革命」	兵庫県高等学校教育研究会 視聴覚部会長 小倉裕史
令和5年11月23日 西宮市民会館	第47回兵庫県高等学校総合文 化祭放送文化部門決勝大会	テレビドキュメント部門： 奨励賞1 「2023」	兵庫県高等学校教育研究会 視聴覚部会長 小倉裕史
令和6年6月2日 加古川東高校	第71回NHK杯全国高校放送コ ンテスト兵庫県大会地区予選	アナウンス部門： 入選1 佳作1 朗読部門：入選1 佳作3 ラジオドラマ部門：佳作2 「STARVIEWERS」 「マイクの妖精さん」	兵庫県高等学校教育研究会 視聴覚部会長 小倉裕史
令和6年6月15日 神戸学院大学ポート アイランドキャンパス	第71回NHK杯全国高校放送コ ンテスト兵庫県大会準決勝	アナウンス部門：決勝進出 テレビドキュメント部門： 奨励2「メイキング」 「100+1」 研究発表部門：奨励1 「私たちは放送“部”」	兵庫県高等学校教育研究会 視聴覚部会長 小倉裕史
令和6年6月16日 神戸学院大学ポート アイランドキャンパス	第71回NHK杯全国高校放送コ ンテスト兵庫県大会決勝	アナウンス部門：奨励	兵庫県高等学校教育研究会 視聴覚部会長 小倉裕史
令和6年11月3日 姫路大学	第48回兵庫県高等学校総合文 化祭放送文化部門予選	アナウンス・朗読・ラジオ ドラマ・DJ各部門：参加 すれど“賞”無し	兵庫県高等学校教育研究会 視聴覚部会長 小倉裕史
令和6年11月17日 高砂文化会館	第48回兵庫県高等学校総合文 化祭放送文化部門決勝大会	テレビドキュメント部門： 佳作1 「教えて！あなたの○○」	兵庫県高等学校教育研究会 視聴覚部会長 小倉裕史
令和7年6月1日 明石北高校	第72回NHK杯全国高校放送コ ンテスト兵庫県大会地区予選		